

## 第二章 社会教育

国際化、情報化、高齢化など社会全体が大きく変貌しつつある。

このような中で、人々は新たな知識・技術の修得や職業能力の開発などに迫られ、また所得水準の向上や自由時間の増大に伴い、高度化、多様化する価値観の中で学習意欲も更に強まってきている。

滝川市では、かねてから生涯学習活動の拠点施設の整備拡充にため、中央公民館をはじめとする地区公民館、児童館、児童センターの建設や、陶芸センター、美術自然史館、航空科学館などの文化施設の建設、更に運動公園、サイクリングターミナル、温水プール、航空科学研修センターなどのスポーツ施設の整備充実のほか、職業訓練施設についても積極的に整備をすすめ、これらの施設の特徴を生かした生涯学習活動を推進してきた。今後は市民の自発的な学習に基づいた行動が一層望まれるとともに、更にまちづくりの環境としてこの自発的な学習意欲に対応するためには、これを支援する学習システムの確立が求められている。

本市においては、昭和五十九年生涯学習推進本部を設置し、更に昭和六十年市民の手による生涯学習機関として、財団法人滝川市生涯学習振興会が設立された。これとタイアップして、滝川市体育協会、滝川市文化団体連絡協議会及び各種文化・スポーツ団体などの

民間団体、職業訓練関係団体及び学校教育機関はそれぞれの機能を発揮し、緊密な連携のもとに生涯学習の振興に努めている。

### 昭和五十六年以降の社会教育委員

昭和五十六年四月一日委嘱

水谷 五一 朝日 昇道 兼田 和子 石黒 直 大川 稔  
藤井 哲也 高野 トシ 辻奥 功 坪田 巧 山本 正信  
米田 裕紀 渡辺 玲一 酒井 信雄 樋口 隆士 深田 正雄

(解五七・三・三〇 渡辺 玲一) (新五七・五・八 本間 鉄男)

昭和五十八年四月一日委嘱

水谷 五一 朝日 昇道 坪田 巧 辻奥 功 藤井 哲也  
深田 正雄 米田 裕紀 山本 正信 高野 トシ 兼田 和子  
樋口 隆士 本間 鉄男 酒井 信雄 坂下 薫 木幡 孝雄

昭和六十年四月一日委嘱

水谷 五一 朝日 昇道 高野 トシ 坪田 巧 辻奥 功  
藤井 哲也 深田 正雄 米田 裕紀 山本 正信 兼田 和子  
酒井 信雄 坂下 薫 木幡 孝雄 高橋 豊 吉川 昌二  
(解六一・四・二八 酒井 信雄 吉川 昌二 高橋 豊 米田 裕紀)  
(新六一・四・二八 内藤雄四郎 細田 長知 柏原 敏之 中谷 幸司)

昭和六十二年四月一日委嘱

水谷 五一 金子 重男 日野 博 柏原 敏之 細田 長知  
木村 照男 石山 悟司 加賀谷時子 中谷 幸司 柴田 勇  
寺谷 厚子  
(解六三・三・三一 細田 長知 木村 照男 寺谷 厚子 柴田 勇  
六三・七・二八 水谷 五一)

(新六三・四・一 鈴木 健治 三浦 隆一)

(解平元・三・三一 鈴木 健治 三浦 隆一)

平成元年七月一日委嘱

柏原 敏之 中川 力 中村 福夫 中野 竹久 古賀エス子  
吉野 郁子 阿部 弘 中谷 幸司 木村 耀子 若山 良一  
平野 富康

## 第一節 社会教育の推進

滝川市の社会教育の推進、地域に根ざした生活文化の創造とその発展を期して生涯学習の推進につとめ、市民の生涯学習への関心と意欲を高めるとともに、生涯の各時期における課題を見だし、絶えず自己を啓発し続けて健康で文化的な生活をめざす活動を展開するよう自己教育力の育成と生涯学習の条件整備をはかるべく努力してきた。

市民一人ひとりが時代の進展に対応した学習をみずからの意志によつてすすめ、生きがいのある人生を求めようとするこゝによつて地域の活性化が得られ、豊かなそして学ぶ街「滝川市」の力強い姿が想定できる。

みんなで生きがいのある地域をつくろう

### 推進の重点

- ① 学習 実践を通し、自主的な活動の充実を図り社会参加の促進をはかる。
- ② 団体の自主的運営の促進と、日常活動の充実をはかる。
- ③ 社会教育施設機能の充実をはかり、各施設間の連携を強化する。
- ④ 文化サークル、グループ団体の育成をはかり、鑑賞機会の充実につとめる。

## 第二節 事業の推進

### 社会教育事業

#### 滝川市商工青年学園

滝川市内の勤労青年を対象にして職業・家事など実生活に必要な知識及び技能を習得させるとともに、一般的教養を向上させて、心身共に健全な勤労青年の育成をはかるため、毎週木曜日、年間五〇日の学習をしている。この学園の特徴は、学園生の自主運営を基本とし、学習内容も学園生が組織的に検討し学習計画をたて意欲的に学習活動を展開している点である。

#### ◎学習内容

- ・ コース別学習 工芸、音楽、ビジュアル、スポーツ等
- ・ 合同学習 学園生全員参加の一般教養の学習でコース別学習の交流の場である(テーブルマナー)。
- ・ 特別教育活動 野外活動、交歓会、各種行事等

### 家庭教育学級

家庭教育に関する学習を一定期間にわたつて計画的・継続的・集団的に行うことにより家庭教育の向上をはかろうとするもので、「乳児教育セミナー(定員四〇名)」、「幼児教育セミナー(定員四〇名)」の二学級を設定、それぞれ年間二〇時間以上の学習計画をもっている。学習の内容は、胎教に関する学習、家庭教育の基礎的理解、家庭における人間関係、子供の理解のしかた、子供の健康と家庭、家庭教育と学校教育の関連等、幅広く基本的なものにしほり、市内在

住の母親を対象に、中央公民館を会場として学習活動を展開している。

#### レディス・コスモス・フェスティバル

昭和六十三年、婦人の自立に向かって国・道から女性の自立政策が打ち出されたことに呼応し、滝川市は婦人の行動計画を策定する企画がすすめられ自立プランを策定するための委員会を設置し推進してきたが、平成元年にいたり趣味、芸能を中心としたイベントを起こし、意欲化を図るべく、文化センターをメイン会場に講演会、芸能発表、グループやサークルによる展示(華道・美術・工芸など)、野点等総合的なフェスティバルを婦人の手作りによる催しとして開花した。このフェスティバル実行委員会に結集した婦人の自覚と行動を基礎に自立した婦人を目指した努力を続けられるよう注目されている。

#### 婦人のつどい

国際婦人デー(三月八月)にちなみ、家庭人、社会人として、さらには国際人として意欲的に活動する婦人のあり方を求めて研修するため、婦連協が運営し、講演会、討議会のほか、レクリエーションも折り込み中央公民館等において毎年盛大に開催されている。

#### 婦人教養セミナー

社会生活をおくる上で、婦人がその個性と能力を十分に発揮し、充実した人生を送るためには生涯学習が必要なことと言うまでもない。このような中で婦人のライフサイクルにおける生涯学習はいかにあるべきかを学ぶため、集团的、継続的にその機会を提供しよう

とするもので、テーマを設定し、毎年一〇回にわたって開設している。

※テーマ例 婦人と郷土滝川、婦人と芸術、婦人と国際交流、婦人と法律、婦人と生涯学習

#### 福寿大学

高齢者自身がめまぐるしく変化する現代社会に対応できる社会知識や教養を身につけ、生きがいのある生活をするため、老人福祉法に基づいて昭和四十八年以来開設され高齢者の学習の場として利用されている。本科は四年制とし、それを修了した者は研究科(二年制)に参加できることになっており、それぞれの課程を修了した者には卒業証書が授与される。

学習計画、年間計画等は、各老人クラブ代表による運営委員会において学生の意向をくみこんで実施している。学習内容は三分校(明神・西・江部乙)同一であるが、見学旅行、宿泊研修は三分校合同で学習している。

#### 公民館講座

生涯学習推進の観点から一般の成人男女を対象にして、生活技術、趣味、教養、スポーツ、レクリエーション等の講座を通じて、成人の学習意欲を高め、公民館は市民の学習の場であることの理解と、これをきっかけとして個々の学習を向上させようとするもので、前期一二講座(五月～七月)、中期一五講座(八月～十月)、後期五講座(二月～三月)計三二講座を設定している。滝川市には中央公民館、音楽公民館ほか七地区公民館があり、講座によって地区公民館にお

滝川市成人式統計（56年以降）

実施年	該当人員			出席者数			出席率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
56			717			509	%	%	71.0%
57	302	375	677	189	272	461	62.6	72.5	68.1
58	358	372	730	237	280	517	66.2	75.3	70.8
59	327	424	751	194	275	469	59.3	64.9	62.5
60	397	453	850	278	289	567	70.0	63.8	66.5
61	324	432	756	197	238	435	60.8	55.1	57.5
62	306	425	731	192	255	447	62.8	60.0	61.2
63	328	525	853	205	373	578	62.2	71.1	67.8
平1	328	477	805	226	309	535	68.9	64.2	66.5
2	335	531	866	202	369	571	60.3	69.5	65.9

いて分散開設しているものもあり全市的に市民が気がるに利用できるように配慮している。講座の例としては、着物着付、木彫、七宝焼、紙粘土工芸、古典文学、華道、コーラス、ペン習字、水彩画、藤工芸、パッチワーク等多岐にわたっており受講者も多く活気を呈している。

公民館まつり

毎年四月に中央公民館において開設されているもので、公民館を利用し活動している各グループやサークル、同好会等の作品発表の

場であり活動意欲を醸成し、更に、その年の公民館講座の受講生募集のため、講座内容をPRしようとするものである。

その他、市民文化祭（十一月三日）、婦人団体リーダー研修、青年親睦スポーツ交流会、市民大学講座、少年科学クラブ、生涯学習地区活動、等の生涯学習関連の事業が行われている。

成人式

二〇歳になった青年男

児童館母親クラブの現況

母親クラブ名	設立年度	会長名 (任期 2. 4. 1~ 3. 3. 31)	会員数
ひまわりの会	S 55	中島 則子	64
コアラの会	S 57	片岡喜恵子	74
あひるの会	S 55	平沢真佐子	109
つくしの会	S 55	麓 美佐子	109
たんぼぼの会	S 55	野田 良子	82
すみれの会	S 55	工藤 敦子	108
ひつじの会	S 57	山田 幸子	65
パンダの会	S 58	岡本 正子	112
すずらんの会	S 59	伊藤 優子	112
さくらんぼの会	S 60	吉野 郁子	72
ほほえみの会	S 62	伊藤 智子	74
コスモスの会	S 63	小原真規子	81
滝川市児童館母親クラブ連合会	(12団体)	会員数 1,062人 会長 岡本 正子	

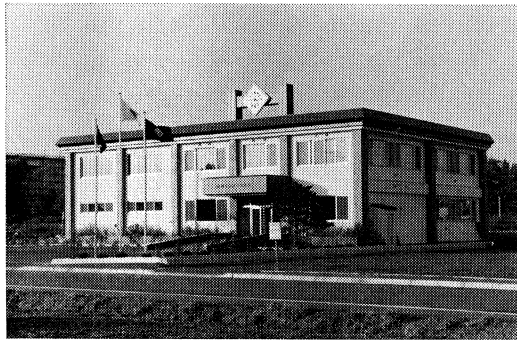
女が、大人になったことを自覚し自ら生き抜こうとする心意気を祝い励ます集いで、昭和二十四年以来一月十五日の「成人の日」に、これら青年男女を招き文化センターを会場とし、アトラクションを楽しみ、記念品を贈呈して前途への新しい出発を祝福するとともに、郷土滝川市を思い、自らの人間性への一層の努力を誓って市民憲章を朗読し、簡素な中にも人生の一刻みを自覚する式典として好評である。

第三節 社会教育施設の充実

滝川市の児童館・児童センター

施設所在地	敷地面積	床延面積 (特)	構造 (色)	特 開館年月日	昭和63年度 利用者
中央 （新町2-6-1）	6,545.40	899.32	鉄筋コンクリート 造2階建	S 37. 7. 1	13,493
泉町 （泉町2-9-5）	1,233.62	253.80	鉄筋コンクリート 造3階建	S 39. 12. 1	10,274
江部乙町 （江部乙町西12-3-11）	2,232.70	222.02	鉄筋コンクリート 造2階建	S 43. 11. 1	12,130
中地区 （朝日町東2-2-4）	3,621.78	423.12	鉄筋コンクリート 造2階建	2階部分は中地区公民館 S 59. 11. 18	15,584
滝の川町 （滝の川町西5-1-3）	3,967.46	375.46	鉄骨造平屋建	S 54. 4. 1	13,199
花月地区 （花月町2-5-1）	875.00	631.00	木造平屋造	S 55. 12. 25	18,901
東川 （東滝川町3-1-26）	953.43	234.00	鉄筋コンクリート 造3階建	S 57. 4. 1	6,079
西地区 （西町6-1-18）	1,472.71	431.84	鉄筋コンクリート 造2階建	S 57. 12. 19	15,662
北地区 （滝の川町東2-1120）	1,584.05	450.00	鉄筋コンクリート 造2階建	S 58. 11. 20	20,722
大町地区 （大町4-4-18）	1,043.92	712.80	鉄筋コンクリート 造2階建	H元. 12. 25 S 59. 10. 21	（8,036） 旧センター分
緑地区 （緑町6-3-11）	1,121.96	441.00	鉄筋コンクリート 造2階建	S 61. 11. 15	11,254
東地区 （東町5-146-15）	1,292.00	441.00	鉄筋コンクリート 造2階建	S 62. 12. 29	11,795
本町地区 （本町4-3-5）	1,355.97	453.75	鉄筋コンクリート 造2階建	H 2. 12. 27	

利用者合計 157,179人



緑地区児童センター



江部乙児童センター

児童館と児童館母親クラブ  
滝川市の次代を担う青少年が自ら心身をきたえ、逞しい人間に育つことを願い、家庭、学校、地域及び関係機関団体が一体となって適切な育成指導の手だてをつくし、家庭の教育力向上を図るべく諸施策を遂行してきた。殊に親子の交流活動を活発にし、健全な遊びを与え、健康で情操豊かな人づくりの拠点としての児童館が市内全域への設置を完了し活動を始めるとともに、それと表裏一体の母親クラブが全児童館単位に結成され、地区青少年育成会と連動した活発な活動は、これからの展望をひらくものとして期待されている。

滝川市自然の家（江部乙町四〇二九番地）  
青少年に活動の場を提供し、健全な環境の中で心身の向上を図

り、地域のコミュニティ活動の場として利用されることをねがって、昭和五十二年十一月十三日オープンした鉄筋造の新装成った自然の家は、豊かな旭沢の自然環境に恵まれ設備のととのっているところから、青少年はもちろん、一般の人々にも親しまれ、軽スポーツ、キャンプ、研修・講習会、野外レクリエーション、歩くスキーなど、幅広く利用されている。

・自然の家施設の概要

- 建築 着工 昭和五十二年八月四日
- 竣工 昭和五十二年一〇月三十日
- 敷地面積 一四、〇二六・〇〇平方メートル
- 床延面積 一九九・七九平方メートル
- 構造 鉄筋造平屋建
- 開館 昭和五十二年十一月十三日
- ・利用の状況（昭和六十三年度）（一）内は宿泊
- 利用件数 四四件（二〇）
- 利用人数 幼 児 二七名
- 小・中学生 五八四名
- 高 校 生 六六九名
- 一 般 六〇三名
- 計 一、八九三名（七八六）

滝川歩くスキー

昭和五十三年三月、旭沢の特設コースに三笠宮寛仁殿下をお迎えし第一回歩くスキーを催したのが嚆矢となり、以来例年三月の記念すべき行事として実施されてきた。

冬の楽しさは、大自然の中に身を投じ、心にゆとりを感じながらさわやかに歩くスキーこそ最高のものであることを知る多くの市民

・最近の参加状況

回	開催日	参加者
3	55. 3. 9	150
4	56. 3. 8	120
5	57. 3. 7	140
6	58. 3. 6	230
7	59. 3. 4	250
8	60. 3. 3	280
9	61. 3. 16	331
10	62. 3. 1	350
11	63. 2. 28	320
12	平成元. 3. 19	320

が集うようになり市民生活に定着してきた。

滝川市中央公民館

市民生活の向上と、文化活動、学習活動の活発化につれて公民館設置の要望が高まり、滝川市では生涯学習の観点に立った社会教育の実践中心施設として、まず中央公民館を建設することになった。

場所は、地域的にも利用度が高い明神町一丁目の総合福祉センターにかさ上げすることとして、昭和五十五年七月二十三日着工、翌五十六年三月十日完成、四月一日開館、同月二十五日落成式を挙行了した。

この、かさ上げによる複合施設は道内でも数少ないものであり、一・二階は福祉センター、保健センター（昭和六十一年に独立庁舎として分離）、新設の三階は「働く婦人の家」、四・五階は公民館と、同一の施設で多目的の活動が可能となり、高度な役割と機能を果たすものとして、各方面から注目をあびた。

建築後一〇年近く経った現在、中央公民館も含めたこの総合福祉センター施設の利用率は年々高まり、現在では年間一五万人を越す盛況ぶりであり市民から愛好されている。

建物の概要は、鉄筋コンクリート造五階建（内三階部分は働く婦人の家の施設で延べ面積一、〇八一・九五平方メートル・総事業費一億四、六七八万二、〇〇〇円）の四・五階部分を使用、延べ面積は二、二四九・九四平方メートル、総事業費三億五七八万六、〇〇〇円である。

四階には講堂をはじめ会議室、社会教育推進指導員室、視聴覚室、工芸室などがあり、五階には研修室、和室、市民サロン、市民ギャラリーなどが設けられ、多様化する市民の要望にこたえられる施設となっている。この中央公民館設置を契機として、以後市内各地に年次的に公民館が建てられ、現在では八公民館、二分館となっており、それぞれ活発な公民館活動が展開されている。

#### 公民館運営審議会

これらの公民館運営を適正かつ円滑にするために、公民館条例四条に基づき公民館運営審議会制度が設置された。

この運営審議会は委員一五名以内で組織し、委員の任期は二年、市長が委嘱することになっており、第一回の任命は昭和五十六年三月三十一日であった。

氏名	就任	退任
棚井 保	昭和五六・四・一	五八・三・三一
江口 弘	同	同
清水 彰	同	同

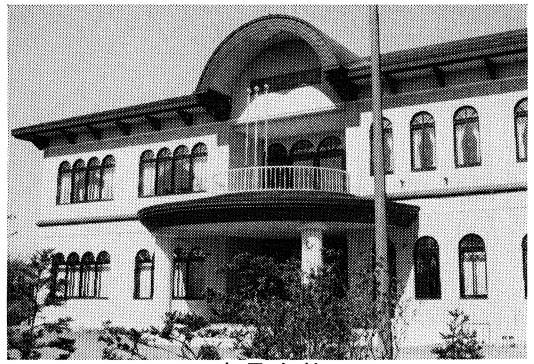
#### 第二章 社会教育

#### 滝川市の公民館

施設名	敷地面積	床延面積(特)	構造	特色
中央公民館 (明神町1-5-29)	3,213.21 m <sup>2</sup>	2,249.94 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造5階建	(4・5階部分) 総合福祉センター・働く婦人の家との複合施設 S 56. 4. 1
中央公民館 花月分館 (花月町2-5-1)	3,274.00	357.00	ブロック造2階建	工芸室・アトリエ S 55. 12. 25
江部乙地区公民館 (江部乙町西12-3-7)	2,232.70	1,132.85	鉄筋コンクリート造2階建	中央公園に向けて屋外ステージ S 60. 12. 25
音楽地区公民館 (新町3-9-30)	1,267.00	1,024.50	鉄筋コンクリート造2階建	音楽練習も出来る。文化公園に向けて屋外ステージ S 56. 12. 20
西地区公民館 (西町6-1-8)	1,073.21	629.84	鉄筋コンクリート造2階建	S 57. 12. 18
西地区館分館 (山車会館) (同)	1,073.21	1,025.50	木造ブロック造	しぶき祭りの山車の展示場 H 2. 4. 1
北地区(滝の川町東2-1120-180)	1,584.05	710.00	鉄筋コンクリート造2階建	S 58. 11. 18
中地区 (朝日町東2-2-4)	3,621.78	355.68	鉄筋コンクリート造2階建	1階部分は、中地区児童センター S 59. 11. 16
緑地区 (緑町6-3-11)	1,121.96	712.80	鉄筋コンクリート造2階建	S 61. 11. 12
東地区 (東町5-146-15)	1,292.00	712.80	鉄筋コンクリート造2階建	S 62. 12. 28
本町地区 (本町4-3-5)	1,355.97	724.35	鉄筋コンクリート造2階建	H 2. 12. 26







市民会館

利用状況

年 度	利 用 人 員
五七	二、八〇五人
五九	三、五五二
六一	三、一六三
六三	三、七五一

一階ホールや二階ロビーの壁には大理石を全面に張りつけるなど、「後世に誇れる立派な建物」と称されるほど豪華な施設である。

内部は一階に、喫茶、軽食コー

ナーつき談話室、和室、調理実習室、会議室、休憩室、事務室を配し、身障者用トイレも備えており、二階には集会室、研修室を設置している。

落成間もない昭和五十七年四月十五日には、滝川市と栃木市の友好親善都市提携盟約式がこの会館で催され、以後、各種式典、褒賞をはじめ、研修、会議、会合など市民の交流の場として幅広く活用されている。

文化センター（新町三丁目六一四四）

昭和四十八年六月二十二日、滝川市民の文化的水準の向上をはかるための施設として開館した文化センターは、市民を中心とした文化的な催し物をはじめ、全道全国を規模単位とする各種大会、文化学術研究の諸会議、式典、展示会等、幅広く利用され中空知におけ

る文化活動の中心的役割を果たしている。

しかし開館以来十有余年の年月を経、その利用頻度が重なることから施設設備の拡充が必要とされるとともに、施設の傷み部分の修理も必要となり、昭和五十六年以降多額の費用を投じ年次的に改善充実につとめてきた。その主なものは、音響関係九、三九九万円、調光関係四、〇九〇万円、天井壁・床等の塗替張替修理二、四六三万円、ホロイエ増築関係二、九八三万円、その他改修二、一七四万円、であり一層の拡充を図ったことから利用は更に促進されつつある。

・開催された主な行事

- 五四年 北海道高等学校PTA連合会第二九回大会
- 北海道社会教育委員研修会
- 第三回郷土芸術祭芸能祭
- 五五年 現代美術展移動展
- 五六年 全国交通安全教育推進地区研修全道大会
- 北海道公衆衛生大会
- 五九年 国際障害者記念空知支庁地区シンポジウム
- 昭和五十九年度北海道体育指導委員研修会
- 六一年 ライオンズクラブ三三一—A地区第三二回年次大会
- ライオンズクラブ三三一—複合地区第三二回年次大会
- 六二年 第四〇回北海道公立学校事務職員研究大会
- 第一一回道民芸術祭、第一九回空知管内郷土芸術祭
- 第八回北海道高等学校文化祭
- 第二一回北海道高等学校美術展
- 平元年 第四〇回北海道婦人大会
- 第一九回赤十字北海道大会

・利用状況

文化センター利用状況

第二章 社会教育

区分		年度	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
大ホール	件数		138 (23)	128 (21)	125 (19)	131 (23)	128 (18)	122 (27)	125 (17)	125 (22)	132 (26)	124 (32)
	回数		235 (36)	203 (32)	221 (37)	215 (43)	218 (38)	221 (61)	241 (43)	219 (49)	229 (61)	235 (74)
	使用料	円	6,545,466	4,913,214	5,449,942	4,929,836	4,926,750	4,616,100	7,781,374	6,780,173	6,547,311	7,473,951
小ホール	件数		162 (55)	203 (54)	129 (25)	136 (26)	153 (31)	116 (31)	127 (33)	118 (24)	105 (31)	109 (40)
	回数		238 (74)	288 (72)	195 (40)	219 (44)	225 (50)	204 (62)	219 (59)	196 (39)	179 (54)	187 (71)
	使用料	円	1,393,752	2,008,198	1,435,667	1,654,774	1,710,192	1,230,573	1,788,961	2,096,762	1,408,359	1,562,077
会議室等	件数		806 (223)	729 (219)	519 (67)	818 (381)	834 (395)	916 (404)	1,011 (404)	791 (260)	645 (83)	599 (128)
	回数		1,530 (333)	1,192 (292)	956 (123)	1,826 (1,065)	1,928 (1,124)	2,127 (1,138)	2,296 (1,139)	1,610 (629)	1,139 (170)	1,140 (309)
	使用料	円	4,077,787	2,608,069	2,055,518	1,842,084	1,665,166	1,888,518	3,537,111	2,998,734	2,885,690	2,577,190
使用料計		円	12,017,005	9,529,481	8,941,127	8,426,694	8,302,108	7,735,191	13,107,446	11,875,669	10,841,360	11,613,218

( ) は市・市教委主催の使用で内数。

年度別利用人員	161,352	129,175	98,766	122,404	132,667	140,219	151,503	136,346	136,931	138,861
---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

年度	区分		計
	有料	無料	
55	11,421	3,401	14,822
56	8,603	3,035	11,638
57	6,419	2,251	8,671
58	5,583	2,455	8,038
59	5,692	2,296	7,998
60	3,909	1,573	5,482
61	3,082	1,218	4,300
62	2,877	1,256	4,133
63	2,744	1,166	3,910

・現在の保存資料点数 一三、三二一点  
入館者数の状況

滝川市郷土館（新町三丁目八―二〇）  
滝川市の歴史をたずね、現在を考え明日への創造に役立たせようとする郷土学習を深め、親子ともどもみずからの教養を深める場としての使命を果たすべく、先人の歩んできた偉業を偲ぶ歴史的資料の収集・保管、効果的な展示を工夫し、郷土館運営機構や施設設備の整備に一層の努力を注ぎ、豊かな郷土滝川の発展をめざす市民の意識高揚の役割を果たしつつある。しかし近年に至り入館者は漸減の傾向にあり極めて残念なことである。市民各層、各団体や機関等における学びの場としての意義を更に理解され積極的に利用されることが望まれるところである。

郷土館分館華月館（文京町一丁目一一九）

はじめに

よどみなき空知川が悠久なる石狩川と合流し滝川の大地を生む。その昔、空知太を行き交う旅人たちは岸辺の宿三浦屋にて明日への希望を新たにしていた。

時は移り九十幾星霜、恵み多き母なる大河は時として氾濫の試練を与えたが、先人は不撓不屈の開拓者精神をもって郷土の建設に邁進し続けたのである。

三浦屋二代目三浦庄作氏は、大正四年菜花通りに旧御料局舎を併せた和洋折衷の邸宅と華麗なる庭園を造り、再び旅人の心を求めた。奥座敷鶴亀の間は各界著名の士に親しまれ、本市発展に関わる諸懸案も種々協議されたと言う。

ここに、開基九〇周年を記念して移築するとともに、華月館と命名し、故きを偲び新しきを探るよすがとして永く保存するものである。

昭和五十五年九月一日

滝川市長 吉岡清栄

右は、滝川市文化財として第三号に指定され、花月町「ホテル三浦華園」の奥座敷を文京町に移し永く保存しようとした開館式にあたり寄せられた吉岡市長の一文である。滝川の発祥時と同じくした三浦屋旅館（初代三浦米蔵）が明治三十一年の大洪水によって流失し、後に再建された経緯を語るものとして、往時を偲ぶ歴史の一コマとしていつまでも大切に残したいものである。

華月館の概要

敷地面積	六〇四・〇〇平方メートル
床面積	一五三・二六平方メートル
構造	木造二階建
移築着工	昭和五十五年三月二十三日
竣工	昭和五十五年七月三十一日
経費	一、九二九万円
施設概要	和室三 応接室一

開館日 昭和五十五年九月一日

郷土館分館屯田兵屋（江部乙町東十一丁目十三）

明治二十七年に入植した江部乙屯田兵屋を移設復元したものである。開拓当時、兵村計画にもとづき碁盤の目のように設けられた道路に沿って、屯田兵屋が規則正しく配置されていた。

厳しい軍規のもとで、未開の大地の開墾に励んだ偉大な先人たちの苦闘の歩みと、反面、和やかな一家団らん的情景を質朴なたたずまいの中に感じさせられる。

※ 滝川市指定文化財 第五号（昭和五十六年九月一日）

滝川市立図書館（新町三丁目五一〇）

昭和四十八年六月二十二日、市民待望の図書館が開館した。以来蔵書の補修整理、閲覧室の整備、閲覧・貸出の簡便化、巡回文庫車の場所の増設など市民のニーズに応えるべく業務の充実につとめてきた。幸い市民の理解協力も得て蔵書は一一万冊をはるかに超えるほどになり、ややもすれば読書離れを指摘されている昨今の風潮の中にあって、読書文化の発展に寄与すべく努力が続けられている。

・図書館協議会委員

武田 せい	四八・七	一〇五八	六・三〇
石元 範子	五〇・七	一〇五六	六・三〇
西沢 秀男	五二・七	一〇五五	三・三一
小田島耕三	五二・七	一〇五六	六・三〇
中西 重雄	五二・一〇	一〇五六	六・三〇
福島 隆治	五三・五	一〇五八	六・三〇
居神 忠	五四・七	一〇五六	六・三〇
高田 信一	五五・四	一〇五六	六・三〇
平野 信夫	五五・四	一〇五八	六・三〇

区 分 \ 年 度		年 度										
		54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1
受 入	購 入	4,985	5,196	5,513	3,484	4,346	3,795	3,699	2,803	3,695	3,795	4,339
	入 寄 贈 等	3,706	3,178	1,462	1,693	2,016	4,371	4,674	1,330	1,820	1,115	601
払 出		1,096	2,978	707	583	2,527	1,910	2,715	7,761	3,673	6,393	9,737
増 減(△)		7,595	5,396	6,268	4,594	3,835	6,256	5,658	△ 3,628	1,842	△ 1,483	△ 4,797
累 計		88,814	94,210	100,478	105,072	108,907	115,163	120,821	117,193	119,035	117,552	112,755

(単位 冊)

区 分 \ 年 度		年 度										
		54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	
基 本 図 書		2,951	3,054	3,219	3,313	3,360	3,448	3,681	3,697	3,727	3,750	
児 童 一 般 図 書		65,229	68,725	73,660	76,477	78,899	80,822	81,676	81,068	81,967	83,324	
寄 贈 等 図 書		20,634	22,431	23,599	25,282	26,648	30,893	35,464	32,428	33,341	30,478	
計		88,814	94,210	100,478	105,072	108,907	115,163	120,821	117,193	119,035	117,552	

(単位 冊)

森本 文子 五八・七・一〇 在	杉浦 京子 五八・七・一〇 六・三〇	佐藤 亮三 五八・七・一〇 六・三〇	谷口 ヤス子 五六・七・一〇 六・三〇	山本 正信 五六・七・一〇 六・三〇	古 好 五六・七・一〇 三・三一	祖母井孝導 五六・七・一〇 六・三〇	年度 \ 区 分		本 館		各 図 書 コ ー ナ ー		巡 回 文 庫		貸 出 文 庫	
							平 元	六 三	六 二	六 一	六 〇	五 九	五 八	五 七	五 六	五 五
												二七六	(一〇五、九〇二)	(二八、四八二)	三五、(二七七)	六、(一七八)
												二八〇	(一〇〇、八七三)	(二四、二二八)	三七、(二七九)	八、(二五〇)
												二八二	(一〇二、六七二)	(二六、二五三)	三八、(二二五)	六、(八九七)
												二七九	(一〇三、六七七)	(二六、九八六)	四一、(三二七)	五、(三〇〇)
												二八二	(一〇四、〇三三)	(二八、七三〇)	三九、(二二六)	六、(二〇八)
												二八二	(一〇一、八〇四)	(三〇、五九四)	三六、(三三四)	六、(四三一)
												二七九	(九二、四一五)	(二一、〇四九)	三〇、(二二八)	五、(二六七)
												二八一	(九七、三九五)	(一九、七三七)	二二、(三八九)	九、(四一)
												二八二	(九五、六三七)	(一五、〇三〇)	二五、(七四八)	六、(四七六)
												二八三	(九六、九四五)	(一五、七二二)	三四、(三三八)	三、(三七五)
												二八四	(九六、六三二)	(一〇、六六六)	四〇、(五八四)	四、(三七二)

単位 冊

藤井 哲也	五八・七	一〇六二	六・三〇
近藤 輝雄	五八・七	一〇〇〇	在
佐々木盛人	六〇・七	一〇六一	三・三一
木村 照男	六〇・七	一〇六三	三・三一
山本 綾子	六〇・七	一〇六二	六・三〇
坂本 国寿	六一・五	一〇六三	三・三一
中谷 幸司	六二・七	一〇六四	六・三〇
加賀谷時子	六二・七	一〇六四	六・三〇
深井 旭	六三・四	一〇六五	三・三一
石塚 喜法	六三・四	一〇六五	三・三一
山田 義雄	五九・五	一〇六六	七・三二
早弓 弘行	六四・四	一〇六七	三・三一
宮崎美代松	六四・四	一〇六七	三・三一
平野 富康	六五・七	一〇六八	在
綿谷 シズ	六五・七	一〇六八	在
矢部 二喜	六五・八	一〇六九	三・三一
今野 吉満	六五・五	一〇七〇	在
和泉 利定	六五・五	一〇七〇	在
落合 孝	六五・五	一〇七〇	在

### だるまちゃんの会

○歳から五歳までの幼児に、絵本の世界に浸ってもらい好ましい読書思考の基礎を身につかせたいという共通のねがいを持った若いお母さんたちが自主的に会をつくり、平成元年四月、「だるまちゃんの家」とあらたに命名し、市図書館の指導をうけながら、月二回の定例会を中心に、絵本の読み聞かせ、紙しばい、ゲームなどのつどいの中から、豊かなるおいのある心を求めて活動を続けている。

(代表者 高橋かず子)

### 滝川子供の読書をすすめる会

昭和四十四年七月に発足した本会は、平成元年で二十周年を迎えた。この間、会の創立者でありリーダーでもあった木内敏夫先生が昭和五十七年十月に他界されてからは、会員の数も漸減し、現在は二〇名ほどで活動している。毎月実施していた活動も年四回程度の学習会に移行せざるを得なくなったが、各分野において活躍されている著名な先生方をお招きしお話しを聞く会などを開催している。会員の数は少なくなっているが、読書の大切さ、読み聞かせの必要性に気付いていない多くの若いお母さん達への、会の趣旨をどう理解してもらえかが課題と考え努力を続けている。

### 滝川読書会「なすな」

昭和五十二年七月、「子供の読書ばかりでなく、母親たちも本を読みましよう。そして読後感を話し合えばもっと本を読むことが好きになるでしょう。」というこゝろで、「子供の読書をすすめる会」の元会長武田せい、滝川高校勤務の笠原俊子たちが中心になって発足したものである。以来一三年間、二カ月に一度の会合を欠かさず開き読後感を話し合っている。平成二年現在、会員数は一名であるが、会合にはあらかじめ輪番で当番をきめ、会場設営や本の選定などの面倒をみる仕組みになっており、力を合わせ互いに啓発しあって読書会を盛りたてている。

### 歴代代表者

- 初代 笠原 俊子(昭五二・七〇昭五八・三)
- 二代 小林美弥子(〇五八・四〇現 在)

滝川地区視覚聴ライブラリー(新町三丁目五一〇)

昭和四十九年設置指定をうけた滝川地区視聴覚ライブラリーは、滝川市立図書館の中に設けることを三市町（滝川市、新十津川町、雨竜町）の協議により決定、滝川地区視聴覚ライブラリー推進協議会を発足させ事業を推進してきた。

事業としては、教材や機材の無料貸し出し、視聴覚教育指導者の養成、他地区との合同による実践交流会の開催などであるが、利用面において遠隔地では直接ライブラリーに頻繁に出向くことの難しさなどもあり、申込みによって時には宅配便を利用し配送するなど工夫し現場から喜ばれ利用度も向上してきた。

・歴代所長

昭六〇年 網淵 正幸（滝川市教育長）

昭六一年～現在 本間 茂（ ）

・推進協議会会長

昭六〇年～六一年 坂本 国寿（東栄小学校長）

昭六二年～六三年 深井 旭（ ）

平元年～現在 早弓 弘行（東小学校長）

・機材の保有状況（昭和六十三年度）

機材名	数量	機材名	数量
16ミリ映写機	9台	8ミリ撮影機	1台
8ミリ映写機	9台	8ミリ編集機	1台
スライド映写機	3台	O・H・P	1台
8ミリコンセプト映写機	4台	T・P作成機	1台
テープレコーダー	1台	V・T・R	4式

・教材の保有状況（昭和六十三年度）

紙芝居	録画教材	16ミリ	コンセプト	8ミリ	教材(分野)	
					社会科	理科
	24	4		111	142	社会科
	4	11		91	7	理科
	19	9	78	19	3	国語
	11			7	19	外国語
	7			3	2	音楽
	2	1		19	21	算数
		1		2	25	図・美
	4			21	28	技・道
	1	1	7	25	26	徳・生活
	1	8		28	149	特 画
	38	18		26	87	動 教
	26	43		149	10	社 他
245	11	41		87		その
	80	2		10		他
245	228	139	85	721		計

※その他として、スライド44、レコード27、T・P2、カセットテープ76

・教材利用状況（広域圏）

市町	年度	小学校	中学校	社会教育	計
滝川市	60	1,091	27	1,020	2,138
	61	1,071	34	1,590	2,695
	62	1,208	39	1,442	2,689
	63	709	27	3,349	4,085
新十津川町	60	273	9	212	494
	61	212	18	322	552
	62	337	21	118	476
	63	255	48	123	426
雨竜町	60	21	0	121	142
	61	28	0	154	182
	62	25	3	10	38
	63	0	0	12	12
地区外	60	0	0	27	27
	61	0	0	53	53
	62	0	1	34	35
	63	0	0	61	61
計	60	1,385	36	1,380	2,801
	61	1,311	52	2,119	3,482
	62	1,570	64	1,604	3,238
	63	964	75	3,545	4,584



・受講者の状況

年 度		年 度										
		54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	
一 般	初 級	26	20	11	20	14	10	20	21	11	10	
	中 級		8		9	9						
	上 級	10	34									
	趣 味		11	7	13	10						
	造 り		13									
	口 ク ロ		7	9	10	10	10	14	16	12	16	
	練 込 み		9	13	5	7				4		
	絵 付				6	6	6					
	練 込 化 粧 土							6			6	
	自 由 制 作							9	15	22	20	8
化 粧 土			12	12	13	6				4		
オ リ ベ										7	5	
勤 労 者	初 心 者	10	11	10	10	6	6	10	10	10	10	
	上 級	14		28								
	手 び ね り		7	7	9	4						
	口 ク ロ		13	6	10	8	6	9	7	10	9	
者	自 由 制 作							4	7	7	12	
	練 込 み						5					
寿	初 級	15	8	1	9			1	3	3	5	
	上 級	36	25	41	28	26	15	7	7	10	11	
冬 期 講 座		50	22	15	33	28	22		24			
夏 休 み 子 ど も		76	78	60	76	92	73	56	53	69	60	
勤 労 青 少 年 ホ ー ム			11	7	8	5	5					
商 工 青 年 学 園			8							15	14	
少 年 科 学 ク ラ ブ											24	
合 計		247	261	227	234	223	178	205	165	164	190	

・施設の拡充

増築工事 床面積 六六・八八平方メートル

同 費用 五四〇万円

建物 四四九万一千円

・現在の施設概要 設備 九〇万九千円(電気窯 一基、電動ロクロ四基増)

敷地 五七三・一八平方メートル、床面積一九一・二二平方メートル

石油倒焰窯 一基、電気窯二基、電動ロクロ 一〇台

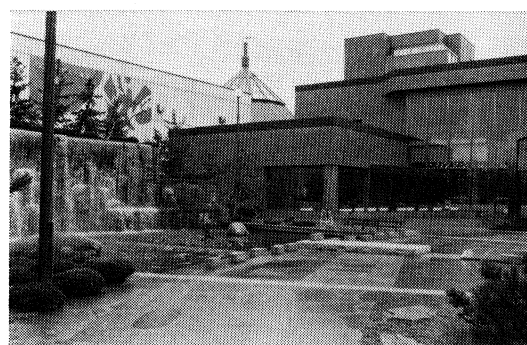
第二章 社会教育

美術自然史館（新町二丁目五―三〇）

昭和五十二年六月開館の郷土館に収納展示する資料は、市民各層の協力を得て数多く収集されたが、その中には美術的に評価されるものも少なからずあった。それらの保存展示について、吉岡市長から、美術館の必要性について問題提起があり、時あたかも国内各地において、地方文化の見直しと向上のため美術館建設と美術品購入などが図られ、市民の文化的指向が高まってきた。

滝川市は、この世論の盛り上りに応えて「滝川市郷土美術館建設費積立基金」を設置（昭和五十三年三月）し、具体化への第一歩を踏み出した。このような中で市では「滝川市郷土美術館建設基本構想策定委員会」を組織し、研究にとりかかった。

委員会のメンバーは



美術自然史館

委員長 田上義也氏（建築家、北海道

文化賞受賞者）

専門委員 熊谷直勝氏（北海道教育大学

教授）

小泉 弘氏（國學院女子短期

大学教授）

武田 厚氏（道立近代美術館

学芸部長）

前田昌弘氏（北海道開発コン

サルタント常務）

三木 毅氏（札幌医科大学

教授）

幹事 小川英郎氏（北海道政経文化

同友会常務理事）

といった道内の一流文化人の方々に依頼したわけである。

委員会は調査実施をもとに細かな検討の結果、昭和五十五年八月滝川市内空知川において発見された滝川海牛化石の学術性や保存等について市民の関心が極めて高いことを考え合わせ、郷土色強い美術館であったとしても普遍的に波及効果をもたらすものでなければならぬと海牛館との複合型施設を示唆し、美術本来の人文科学と自然史本来の自然科学の接合に力点を注ぐ「美術自然館」構想を含めた、四章四二ページにわたる報告書を策定し、昭和五十八年二月に来庁され説明を行った。

この報告を受けて、すでに世論にもなっている海牛の館の存在を踏まえ、更に美術館の規模、運営管理を勘案する複合館が、やはり滝川市にとって有益であるとの判断を下し、「郷土美術館」と、「海牛に焦点を合せた自然史館」で構成する『滝川市美術自然史館』の建設が決定された。

本館は、昭和六十年七月八日起工式を行い建設がスタートし、別途展示部門プロジェクトチームの作業が、基本構想テーマ

「地球と人 そして創造」——動物の進化による人類の誕生と人間の造形文化——

に沿いすめられた。ここでは展示種類の拡大化が、本来の海牛館のイメージを損うのではないかと懸念や、美術の方においても三巨匠展示室に通りすぎるのではないかと解される向きもあつたりして論議に時間を費やした。

このようにして北海道初の本格的な自然史博物館と郷土愛が浸透

した美術館の統合館が形づくられ、各種企画展とともにこれを土台に、更に豊かな心をもった文化向上が図られている。

また、美術自然史館の前庭には、自然史部門に関連して、レリックの世界で構成する化石の森(二、五二九・一平方メートル)が造成されているが、これは古代の滝川地方をシンボリックに再現した情景で、陸地は古代の植生に近い類似現生種と生きた化石植物といわれるイチョウやメタセコイアの森などで形成されている。一方、海辺には親子海牛や伝説の人魚像を配し、滝川の象徴である太古の滝を隔てて鮮新世の時代の示準化石タカハシホタテを大きく形どっている。また、滝の後方には、タキカワカイギュウが生息していたころの五〇〇万年前の北海道の姿が壁に画かれ、来館者の関心を高めている。

#### ・建築の概要

- 敷地面積 一〇、五三四・九七平方メートル
- 床延面積 二、八八九・三七平方メートル
- 建築構造 鉄筋コンクリート造、二階建一部地下
- 建設費用 九四四、〇四六千円(展示費等を含む)
- (内建築費 七二八、八五〇千円)

#### ・展示の概要

##### 一F 自然史部門

タイムトンネルをおし、宇宙から地球誕生を表現し、昭和五十五年空知川河床から発見されたタキカワカイギュウを中心に世界的に貴重な、ヨルダニ海牛、ステラー海牛の骨格標本(レプリカ)を展示し、壁面には、日本列島の生い立ちと動物の進化を同時に表現している。また、大型恐竜ティラノザウルス、マンモス、大角シカ等の骨格標本(レプリカ)の展示もある。

タキカワカイギュウは、昭和五十九年三月「北海道天然記念物」に指定され、昭和六十三年には、ヒドロダマリス属の新種の *Hydrodamalis spissa*

#### FURUSAWA (学名)

であるとして世界に向けて発表され、海牛の進化の謎をとく大変貴重な資料である。

そのほか、地球が誕生して四十六億年の時間の中で登場した生物をそれぞれの時代に生息した代表的な生物を描いた大壁画とともに展示している。古生代のエリオプスやシーラカンス、中生代のティラノザウルスやプロトケラトプス、そして、新生代のオオツノジカなどの全身骨格からは、大きさや特徴を知ることができる。中二階では、化石類人猿からクロマニヨン人までの人類の進化を模型を使って紹介し、一番身近な人類についてふれている。

##### 二F 美術部門

#### 「岩橋英遠室」

日本画の大家、明治三十六年、江部乙村生まれ、昭和三年院展初入選、以来中央画壇にて活躍、昭和四十六年、日本芸術院賞受賞、昭和五十六年、日本芸術院会員、現在東京芸術大学名誉教授、滝川市名誉市民。平成元年度文化功労者として顕彰された。

この室には、画伯が学んだ北辰小学校(現江部乙小学校)改善センターの位置)での雪戦会のように描いた「雪戦会の日」が掲げられ、「翔ぶ」は、この美術自然史館のために特に制作された作品で、暑寒別岳を背景にした丹頂鶴の群と大地の豊かさが見事に描かれ、自然感溢れる安らぎの境地が、観る人に伝わってくる。

#### 「一木万寿三室」

滝川市出身の画家・市政功労者である画伯は明治三十六年生まれ昭和四年帝展初入選、昭和十九年、郷里江部乙に戦争疎開、その後滝川・札幌に居住し制作に励んだ。特に全道美術協会創立に参加、道内画壇に多大の貢献をなし、昭和五十二年北海道文化賞に輝いた。

この特別室の作品は、二十三歳当時の若き「自画像」、帝展初入選の作品「窓」、さらに、この地方の農村を描いた「水田」など、画伯の一生を理解できる貴重な作品が展示されている。

昭和五十六年、札幌市にて死去された。

#### 「上田桑鳩室」

明治二十三年、兵庫県生まれ、書家。昭和五年、泰東書道院展に出品し、文部大臣賞受賞、その後中央にて活躍、前衛書道の今日的地位を確立された功勞者である。昭和二十九年、日展審査員を辞退した師は初めて滝川を訪れ、以来昭和四十二年まで毎年来滝し、後世に残る数々の傑作を制作した。滝川を第二の故郷とした師の晩年の傑作は殆ど滝川に残された。この室には、「三逕菊松」、「命」などの書、「定山溪」、「円空」などの絵のほか、陶器や遺品の数々が展示され師の芸域の広さ深さが偲ばれる。

昭和四十三年、東京にて死去された。

「企画展示室」

道民を対象とした芸術的価値の高い作品の企画展示をし主催している。主なものとしては

- ・第六十一回道展滝川移動展　。岩橋英遠展　。上田桑鳩展
- ・布穀会墨書特別展（上田桑鳩師門下生）
- ・カナダ現代クラフト秀作展
- ・滝川海く五百万年前のどうぶつたち
- ・海からのメッセージく日本のかいから展　等が行われた。

・入館者の状況

年度	有	料	無料(視察・授業)	計
六一	六、一七二		三、一五九	九、三三一
六二	九、六二五		一〇、二六五	一九、八九〇
六三	八、一四三		二二、〇〇四	二〇、一四七

滝川市航空科学館（新町二丁目六一〇）

内地地に在る滝川市は、航空機等空に関する科学に接する機会が少ないことから、これからの青少年に夢と希望を持たせ雄大な気宇を育てることが必要との観点から、たまたま海上保安庁のビーチクラフト機を購入する機会に恵まれたことと合せ、児童生徒に空への関心を持たせ科学する心を育み健全育成を図るために少年科学クラ



航空科学館

ブを設立した（昭和五十六年十月十七日発会、定員八〇名）。

同年十月十八日、石狩川河川敷において札幌航空協会の方々協力によってグライダーの体験搭乗飛行が行われ、四〇人の市民が直接空から滝川の街を見ることができた。この催しによって滝川市民の大空への関心は一挙に高まり、市としても、河川敷がグライダー滑空場としてすぐれており、滝川市の事業を推進し充実を図るとともに、児童生徒を中心として直接手に触れ、目にふれる施設が必要と航空科学館の建設に踏み切った。

昭和五十八年、航空科学館は開館され、学校における社会科の見学学習の場として最大限利用され、一般市民の関心も高く活況を呈している。グライダー滑空場が整備され、航空科学研修センターが設置されるなど、スカイスポーツのメッカとして滝川市の名が益々脚光を浴びるにつれて最近では地方の人々の来館見学者が増え好ましい現象といえる。

・開館　昭和五十八年十月三十日

・敷地面積　二、〇〇五・三八平方メートル

・床延面積 六九七・五六平方メートル  
・建築 昭和五十八年八月十九日

竣工 昭和五十八年十月二十五日  
工費 四、五九四万円

●施設の概要

屋外展示

・セスナー一五〇型  
・V型ヘリコプター用エンジン

屋内展示

・ビーチクラフト機H一八型

・川崎KAT一型

・セスナー一四〇型

・萩原式H二二A型グライダー

・J七九一―A展示エンジンアフターバーナー付

・パラシュート

・F一〇四のエンジン

・その他航空関係資料

社会体育施設

滝の川運動公園体育施設

滝川市青年体育センター 略

滝川市営球場

・管理棟建築

着 工 昭和六十一年十月二十五日

竣 工 昭和六十二年十月三十日

施設概要 本部席 四九・四四平方メートル

選手控室2二九・四四平方メートル

記者室、審判控室、役員室、会議室等

工事費 七五、〇〇〇千円

・夜間照明新設

着 工 昭和六十二年十月十九日

竣 工 昭和六十二年十二月二十五日

施設概要 照明柱(バンザーマスト)一六・〇八メートル六基

第二章 社会教育

投光器 メタルランプ 一、〇〇〇W×一〇灯

高圧ナトリウムランプ 六六〇W×五灯

点灯 コインシステム自動点灯

照度 内野最高 四〇〇ルククス

外野最高 二〇〇ルククス

平均照度 二四〇ルククス

工事費 三五、八〇〇千円

・内・外野ラバーフェンス取付け

着 工 平成元年五月六日

竣 工 平成元年五月三十日

工事費 九、九九一千元

滝川市テニスコート

・夜間照明新設

着 工 昭和六十年七月十一日

竣 工 昭和六十年七月三十一日

工事概要 コート 二面分

照明柱(コンクリートポール)

一三・三〇メートル 二基

投光器(一、〇〇〇W六灯) 二基

照度 最高三〇〇ルククス

平均一五〇ルククス

点灯設備 手動式

工事費 四、〇〇〇千円

滝川市弓道場

・増築工事

着 工 昭和六十三年六月二十七日

竣 工 昭和六十三年八月二十五日

増築面積 五四・〇平方メートル

増築分 控室二、便所、ホール、玄関

工事費 九、二五〇千円

### 滝川市陸上競技場

・管理棟新築

着 工 平成元年九月五日

竣 工 平成元年十月三十一日

施設概要 一階 倉庫 一四六・八八平方メートル

二階 会議室他 二二三・五四平方メートル

記録室、放送室、救護室、役員室等

工事費 三二、二〇八千円

### 滝川スポーツセンター 略

滝川市硬式テニスコート 滝の川運動公園造成のひとつとして、

テニス愛好者からの要望の強かったことと従来の軟式用コートを補完する意味も兼ね新設されたものである。

#### 施設概要

コート数 四面 三、〇五五平方メートル

コート表層 グリーンダスト舗装仕上

ネットフェンス 三メートル

散水栓 二 水香場 一

管理棟 プレハブ造平家 二〇・二八平方メートル

植栽 バンクツチャー松 四〇本

着 工 平成元年九月一日

竣 工 平成元年十月七日

工事費 三〇、三五四千円

**滝の川球場** 市内の野球愛好者は老若を問わず増加しているこ

と、「はまなす国体」における高校軟式野球の開催地であり、今後とも大規模な野球大会の開催が想定されること等から、市営球場と同規模程度の球場が必要との観点から運動公園の整備拡充が図られ

た。

規模 左右翼線 九六メートル

中堅線 一一五・五メートル

球場面積 一二、〇七七平方メートル

着 工 昭和六十三年五月二十一日

竣 工 昭和六十三年七月三十日

工事費 三三、七〇〇千円

**アーチェリー場** アーチェリーに関心をもつ市民が徐々に増加

し、身障者にもとり組めるスポーツとして好まれる傾向がみえてきたことで、その練習場として運動公園の一面に新設された。的場は盛り土をしたものであるが、身障者の歩行や車椅子の歩行に配慮しアスファルト舗装が成されている。

規模 練習用として五射場

射距離 三〇メートル、五〇メートル

着 工 平成元年七月五日

竣 工 平成元年八月二十五日

工事費 六一八千円

**サイクリングターミナル** 道内においては三番目のもので、滝川

市民の健康増進、青少年の健全育成を柱とし、更に、家族、グループのコミュニケーション醸成の場として活用できるように配慮して新設されたものである。宿泊・食事・入浴等も出来、貸自転車も備えつけられており利用者は年々増加している。

昭和六十一年より「サイクリングターミナル自転車月間の集い」を企画し実施している。毎年二〇〇名前後の参加者があり、主催している滝川市教育委員会、レクリエーション協会や市では今後も続けて実施すべく張り切っている。



サイクリングターミナル

敷地面積 六、〇八六・九二平方メートル  
 床延面積 一、二四二・一三平方メートル  
 一階 七二六・〇八平方メートル  
 二階 五二六・〇五平方メートル  
 構造 鉄筋コンクリート造 二階建  
 施設概要 宿泊室(和室)十一、大広間一、食堂一、自転車格納庫(六三台収容)、浴室(大少)、  
 研修室、屋上庭園

工事費 二一九、四〇〇千円  
 外構工事 四九〇千円  
 電気設備 一四、五〇〇千円  
 設備工事 四七、九〇〇千円  
 新築工事 一五二、一〇〇千円

時計塔 運動公園の諸施設を利用する市民は年々増加しており各所に散らばり健康づくりに励んでいる。これら利用者の便をはかることから、どの施設、どの方角に在っても時刻が判るように工夫し設置されたものである。高さ一一メートルの塔の上に、直径一・二メートルの大時計三個を三方面に向けてとりつけたもので、工事費は、五〇三万三、〇〇〇円である。

着工 昭和五十八年七月十八日  
 竣工 昭和五十九年二月二十日

滝の川運動公園各施設利用状況

年度	施設名	市営球場	テニスコート	陸上競技場	弓道場	青年体育センター	スポーツセンター
昭和五四	〃	一一、三七三	一一、五一〇	五、七二五	三、一七〇	五一、〇四九	四六、九四四
〃	〃	二八、〇二四	二一、九九〇	三、七六二	五、四八四	五四、一二五	八一、七七一
〃	〃	五五	三四、六〇〇	七、四二七	三、九五〇	五五、九五二	六一、一六九
〃	〃	五六	三四、六五〇	七、二〇一	四、二六一	六六、〇九八	六〇、九七三
〃	〃	五七	三一、六〇〇	三、七六二	四、八六〇	六三、九二四	六六、四七九
〃	〃	五八	二一、〇八〇	三、〇七六	五、〇一六	五〇、五八九	七一、三三四
〃	〃	五九	三一、四二二	一、〇五九	五、二八九	五四、三〇六	六八、〇二七
〃	〃	六〇	三一、二四二	一、〇九五九	五、六八五	三六、二一三	五五、九一〇
〃	〃	六一	二七、五〇一	一四、六七一	六、六三六	三九、七七六	五三、四一一
〃	〃	六二	三三、八四九	九、四九〇	五、五八〇	四八、六一一	五五、八七四
〃	〃	六三					

・センター利用状況

施設名	年度	利 用 人 員 (人)				使 用 料 (円)			
		当日券	定期券	団 体	計	個 人	団 体	備 品 (団体)	計
青年 体育 セ ン タ ー	54	11,680	4,593	34,776	51,049	655,385	2,020,730	230,998	2,907,113
	55	8,597	7,669	37,859	54,125	627,265	2,185,441	341,523	3,154,229
	56	9,424	5,713	40,815	55,952	642,485	2,514,080	308,496	3,465,061
	57	8,415	8,779	48,904	66,098	721,295	2,230,960	256,705	3,208,960
	58	6,646	12,013	45,265	63,924	642,485	2,514,080	308,496	3,465,061
	59	6,070	14,009	30,512	50,589	675,525	1,635,563	318,739	2,629,827
	60	4,809	11,894	37,603	54,306	935,440	3,228,570	473,560	4,637,570
	61	4,246	10,241	21,726	36,213	801,790	1,824,350	497,840	3,123,980
	62	4,925	9,479	25,372	39,776	850,430	1,001,840	443,210	2,295,480
63	4,987	12,963	30,661	48,611	921,300	1,346,440	501,040	2,768,780	
ス ポ ー ツ セ ン タ ー	54	15,339	19,116	12,489	46,944	1,698,575	490,040	257,520	2,446,135
	55	17,466	32,394	31,911	81,771	1,871,010	2,176,730	220,250	4,267,990
	56	15,475	33,144	12,550	61,169	1,762,015	796,320	244,695	2,803,030
	57	16,732	32,740	11,501	60,973	1,806,375	445,980	199,920	2,452,275
	58	16,195	35,274	15,010	66,479	2,000,510	507,700	242,910	2,751,120
	59	13,174	38,394	19,766	71,334	1,893,525	1,081,080	256,925	3,231,530
	60	10,852	40,598	16,577	68,027	2,610,810	937,090	279,830	3,827,730
	61	8,379	30,999	16,532	55,910	2,129,220	1,001,590	419,720	3,550,530
	62	9,162	28,797	15,452	53,411	2,086,350	1,593,460	312,600	3,992,410
63	10,295	26,026	19,553	55,874	2,114,290	877,280	365,170	3,356,740	

その他 市内には昭和五十一年五月オープンの勤労青少年  
 体育センター、江部乙町にある昭和五十二年十月オープンの農村環  
 境改善センター(多目的ホール)があり、いずれも地域や勤労青少年の  
 スポーツ活動に利用されている。

主な全道全国スポーツ大会(青年体育センター・スポーツセンター)

昭和五四 日米親善テニス大会、全道中学生バドミントン大会、

全道バレーボールクラブ選手権大会、第一回自治体職員女子バレー  
 ーボール大会、北海道カナダ親善スポーツ交流柔道大会

昭和五五 第一八回全道市役所バスケットボール大会、第四回東

日本トランポリン選手権大会、全道自衛隊バドミントン大会、北  
 海道中学校新人戦卓球大会、第一六回全道高校軟式庭球選手権大  
 会

昭和五六 第三二回全道青年大会兼全国青年バレーボール大会、

第三一回全道高校柔道大会、全道学生選手権バドミントン大会第  
 一七回高校インドア軟式庭球大会、全道中学生新人卓球大会

昭和五七 北海道実業団バレーボールリーグ戦、第三五回全道高

校卓球選手権大会、全道銃剣道国体予選、全道中学校卓球大会

昭和五八 第一五回道民スポーツバスケットボール大会、第一四

回全道中学校バドミントン大会、高校選抜北海道バレーボール  
 大会、第一九回全道高校インドア軟式庭球大会

昭五九 北海道バドミントン選手権大会、第三七回全道高校バス

ケットボール選手権大会、第二回日米親善ソフトテニス大会、第  
 五回全道市役所バレーボール選手権大会、全道新人卓球大会、第

施設の名 称	所 在 地	設置 年度	概 要
青年体育センター	運動公園内	45	鉄筋コンクリート一部2階建 7,729.16㎡
スポーツセンター	〃	53	床面積 3,531㎡ アリーナ、トレーニング室、ロッカー及びシャワー室他 7,888㎡
北電運動公園	泉町 135番地	50	スキー場、野球場、砂場他 126,000㎡
市営球場	運動公園内	47	夜間照明設置 スタンド(11,000人収容) 159,538㎡
滝の川野球場	〃	63	左右翼線96.0m 中堅線 115.5m 12,077㎡
軟式テニスコート	〃	48	コート8面、うち夜間照明設置2面、スタンド(800人収容) 13,000㎡
硬式テニスコート	〃	元	コート4面 3,055㎡
陸上競技場	〃	49	三種公認 1周400m 8コース、スタンド(8,000人収容) 25,148㎡
サイクリングターミナル	〃	59	宿泊室11、研修室、食堂、大小浴場 6,086.92㎡
弓道場	〃	51	6人立、鉄骨造平家建、ALC板張 900㎡
アーチェリー場	〃	元	練習用5射場、射距離30m、50m
江部乙カーリング場	西11丁目 北辰グラウンド		3シート、ビニール覆3棟(7m×50m)
温水プール	有明町6丁目	60	通年制プール3(幼児用、学童用、一般用)、レストラン 4,061.51㎡
滝川滑空場	中島町地先 石狩川河川敷地	56	着陸帯 800m×60m、グライダー5機、軽飛行機1機 65,000㎡
航空科学研修センター	中島町 148番地2	58	1階格納庫、2階研修室、事務室、和室他 2,188.20㎡
石狩川緑地球場	有明町 石狩川河川敷地	43	野球場8面(43年2、51年1、56年2、平成3) 52,000㎡
空知川緑地	空知川河川敷地	51	多目的広場、サッカー場、交通公園、テニスコート6面(軟式4、硬式2) 17,000㎡
滝川スキー場	砂川市空知太		スロープ巾50~100m 長さ350m、リフト340m、夜間照明、レストハウス 79,000㎡
滝川スケート場	第一小学校内	52	1周250m
江部乙スケート場	西11丁目北辰グラウンド	54	1周250m
ゲートボール場	空知川河川敷地	59	ゲートボールゲーム場15面 21,000㎡
空知川ソフトボール場	新町地先空知川河川敷地	60	ソフトボール場4面 29,895㎡

二回全道冬季ゲートボール大会、

昭和六〇 第一六回全国中学校柔道大会、全道選抜リーグバレー

ボール大会、全道秋季親善バレーボール大会、全道高校卓球選抜大会、全道中学生新人バドミントン大会

昭和六一 全道高校バドミントン選手権大会、全道社会人卓球選

手権大会、第二九回東北北海道對抗剣道大会、全道実業団九人制

バレーボールリーグ戦

昭和六二 第一八回全道中学校バドミントン大会、全道学生バド

ミントン選手権大会、道知事杯争奪ゲートボール大会

昭和六三 全道銃剣道大会、全道学生バドミントン選手権大会、

北海道体育大会兼国体バレーボール大会、全道市役所職員對抗軟

式庭球大会、全道学生会長杯争奪バドミントン大会、全道中学新

人バドミントン大会

平成元年九月、第四四回国民体育大会はまなす国体高等学校野球

(軟式の部)競技会

※ 以上の他、毎年開催されている大会

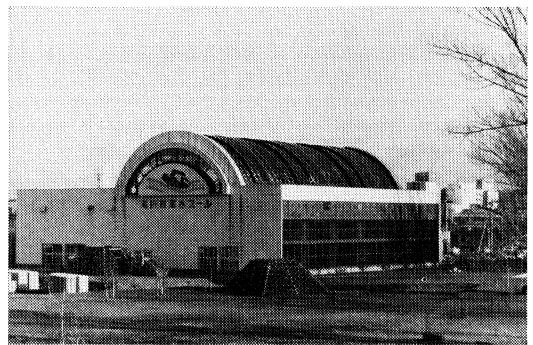
全道中学校インドア軟式テニス大会

全日本大学対抗予選兼会長杯争奪卓球大会

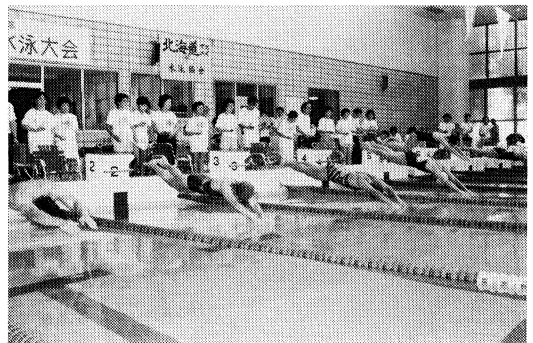
全道選抜インドア軟式庭球大会

滝川市温水プール(有明町六丁目)

市民用プールが市内の学校を中心にして各所に設置されたことから夏における体力づくりやレクリエーションとして水泳が愛好されてきた。滝川水泳協会も健全なスポーツ、楽しいスポーツ、そして水泳技術の向上を市民に啓蒙すべく計画的に事業をすすめてきた。



滝川市温水プール



温水プール(水泳大会風景)

しかし、夏の短かい北海道では限度があるところから、通年水泳を楽しむことのできる温水プールの設置を市当局に要望してきた。

滝川市は、滝川市まちづくり計画(昭五四四)の中において、豊かな冬の創造として市民の期待に応える社会体育施設の整備充実により温水プール設置をおりこみ、各方面の意見を徴しながら、滝川市にふさわしい通年利用プールについて具体的検討をすすめ、じん芥処理によって生じる焼却余熱の利用と、自動車の発達によって生まれる古タイヤを燃やすことによって生じる熱とによって温水プールの運営を行うこととし、昭和五十九年七月工事に着手した。

完成した温水プールは昭和六十年十二月から一般に公開し使用されるようになったが、一般市民の関心は極めて高く年を追うごとに利用者は増え、水泳教室への参加登録も盛会を極めていく。

・建築概要

敷地面積 四、〇六一・五二平方メートル  
 床延面積 二、七〇三・八六平方メートル  
 地下 二一四・八五平方メートル  
 一階 二、二三一・九二平方メートル  
 二階 二五七・〇九平方メートル  
 構造 鉄骨造 一部二階建

児童用プール 一五×八メートル  
 一般用プール 二五×一九メートル、九コース  
 管理棟 事務室、会議室、医務室、管理人室、更衣室、トイレニング  
 室、シャワー室、保温室  
 二階 レストラン、ギャラリ  
 着工 昭和五十九年七月二十四日  
 竣工 昭和六十年十一月三十日  
 工事費 五三八、〇〇〇千円

・利用状況

一階プール棟 幼児用プール 直径五メートル

年度	有			料	無		合	計(人)	使用料総額(円)
	小学生(人)	中学生(人)	高校生(人)		乳幼児	他(人)			
六〇	四、七八三	五三〇	二三三	一	六、一五四	五三七	一一、二三六	四、二九五、九〇〇	
六一	一五、六九六	二、〇三三	九一〇	二	二一、八六六	一、八一	四二、三一六	一三、一五〇、九五〇	
六二	二一、一四五	一、四九三	八四五	二	二九、四七〇	二、五〇七	五五、四六〇	一五、六八三、八〇〇	
六三	二六、二七八	一、九六一	八九一	三	三六、〇三一	三、四六四	六九、四九五	一九、一九三、二三〇	

・市内プール一覧

名称	所在地	年設置	概要	要
開西中学校プール	開西中学校校地内	三八	鉄筋コンクリート(一般用 二五×二二・五メートル 幼児用 二五×二・五メートル)	五二年度循環ろ過器設置 五六年度プールハウス(鉄骨、シート取付)
滝の川市民プール	滝の川運動公園内	三九	鉄筋コンクリート 二五×一メートル	五三年度 幼児用プール・循環ろ過器設置 五六年度 プールハウス(鉄骨、シート取付)
江部乙市民プール	江部乙町八〇一	四二	鉄筋コンクリート 二五×一五メートル	循環ろ過器設置 五六年度プールハウス(鉄骨、シート取付)

東陽市民プール	江部乙町 旧東陽小学校地内	四三	鉄筋コンクリート 二五×八メートル
第一小学校プール	第一小学校地内	四七	鉄筋コンクリート 二五×一三メートル 循環ろ過器設置 五六年度 プールハウス(鉄骨、シート取付)
第三小学校プール	第三小学校地内	五五	アルミプール(一般用 二五×一〇メートル) 幼児用 二五×二・五メートル) 循環ろ過器設置 プールハウス(鉄骨、シート取付)
東小学校プール	東小学校地内	五六	右 同
東栄小学校プール	東栄小学校地内	五七	アルミプール(一般用 二五×五・五メートル) 幼児用 二五×二・五メートル) 循環ろ過器設置 プールハウス(鉄骨、シート取付)

滝川市のスカイスポーツ

昭和五十六年九月十六日、「空から滝川のようにすを見よう」ということで吉岡市長外二名は丘珠飛行場から、四人乗り軽飛行機で飛び立ち、滝川市街視察を行った。そのセスナ機を操縦してくれた吉田勝三氏と、同乗した市長との対話の中から、これからの青少年に与えられる夢として大空が最も身近かで世界に広がり極めて有意義なものとの確信が生まれたのが発想となり「滝川に飛行場をつくらう、青少年に夢をふくらませよう、未来を拓こう」という考えから、札幌航空協会に適地調査を依頼した。

昭和五十六年十月十八日、石狩川河川敷滑空場においてテスト飛行を実施、更に体験搭乗飛行を行って一般市民も参加した。その結果、総合的にみて滑空場としての立地条件に恵まれ、更に、気流、航空管制関係等も全く支障が無く最適という結論が下され関係者一

同安堵の胸をおろした。早速事業を推進する母体が必要ということ、昭和五十七年三月八日、滝川航空協会設立総会が開かれ、近藤良四郎を会長に選出し形は整ったわけである。しかし、河川敷地と航空協会しかない有様で前途の多難を危惧する向きもなかったが、協会会員の真剣な取り組みは続けられ、同年九月十一日、北大から萩原式H―二三C型複座グライダーの譲り受けたことを機に飛行を開始した。十月には、北大から、丸伊氏外一名がグライダー点検のため来市、懇切な指導をうけた会員たちは、一層空への意欲をかき立てられた。

昭和五十八年十月、滝川市はグライダーの一層の充実を図るため航空科学館、航空科学研修センターを建設竣工させた。特に研修センターは、格納庫、研修室等を含む五七三・五〇平方メートルの堂々としたものであり北海道におけるグライダーのメッカとしての機

能を果たせるものであった。

その後航空協会会員の参加は増加するとともに、市内有志の温かい支援もあって機材も徐々に整備され、有能なグライダー指導者を市職員として採用し、その指導を受けるようになって各種の資格取得者が続出、各種競技会に参加入賞を果たすなど、その活躍ぶりは目を見張るものがあり滝川滑空場の名は否応なく大きく喧伝される形となってきた。参加する協会員も道内外に及び、単なる滝川市民のための運営は難しくその位置づけはますます高くなり、ここにスポーツとしてのグライダーという考え方に方向づけられることになった。

北海道開発庁は開発施策のひとつとして大空の開発も推進すべく企画中であるところから滝川市の事業にも刮目し、滝川市と歩調揃えた航空公園造成の策定の方向に進展してきた。

グライダーの拠点として滝川市が注目されてきたことから協会としては日本滑空選手権大会の開催を計画し、昭和六十二年、プレ日本滑空選手権大会、翌昭和六十三年には、第六回全日本滑空選手権大会の会場及び運営を担当、日本滑空協会の指導の下、内容の濃いすばらしい大会として、また滝川市が全国的拠点としての重要性が増したとして好評を受けたところである。

昭和六十三年四月、北海道滑空協会が新しく設立されることになり、当日の総会において滝川航空協会会長近藤良四郎が初代会長に選出された(参加一〇団体 二五〇名)。

滝川市におけるグライダー振興の歩み

六・一九	海上保安庁よりビーチクラフト機の払い下げをうける (屋外展示)
五六・九・一六	吉岡市長、軽飛行機により滝川上空を視察飛行、滑空場設置のきっかけとなる
二〇・二七	少年科学クラブ発足
一〇・一八	グライダーによるテスト飛行及び体験飛行が行われる (札幌航空協会)
五七・三・八	滝川航空協会設立総会(会員数一九名 会長近藤良四郎就任)
七・二六	石狩川河川敷地一五四、一一九 <sup>2</sup> m <sup>2</sup> の占用許可を得る
八・八	滝川滑空場開き、飛行訓練開始(札幌航空協会)
九・一一	複座グライダー萩原式H二三CⅢ型、JA二〇五五を北海道大学より購入
九・一二	滝川航空協会としての飛行を開始 総飛行回数九六回
五八・二〇・二九	滝川市航空科学館及び滝川市航空科学研修センター竣工
一一・一三	飛行終了 総飛行回数一、〇七一回
五九・五・六	北門信用金庫より複座グライダーASK一三型、JA二三二一及び二連式ディーゼルウインチが寄贈される
七・三一 八・一	第二回全日本高等学校滑空選手権大会に二名参加(千葉県関宿滑空場) 東藤朋恵(滝高三年)：五位、藤本吉寿(西高二年)：一位
一〇・一〇	第一回滝川滑空選手権大会開催
一一・一一	飛行終了 総飛行回数一、七三七回
六〇・八・三〇 八・二九 九・一	第一回市民体験搭乗会実施(八〇名) 第二回全日本高等学校滑空選手権大会に二名参加(山梨県日本航空学園) 藤本吉寿(西高三年)：四位、東藤拓(滝高二年)：九位
一一・一〇	飛行終了 総飛行回数一、九三五回
六一・七・二六	第二回市民体験搭乗会(八〇名) (二日間)
七・二八	第一回小中学生一日航空教室(三三名)

九・一三 一・一五	第一回北海道グライダーフェスティバル開催（八団体、一三機 九六名参加）
一〇・一	滝川市立病院航空身体検査指定機関として認定をうける
一〇・一三	自家用操縦士実地試験 七名合格
一一・九	飛行終了 総飛行回数二、〇五九回
六二・六・二三	滝川スカイスポーツネットワーク推進協議会（TAS）発足（二五名）
七・二二	プレ日本滑空選手権大会実行委発足
七・二五 二六	第三回市民体験搭乗会（六〇名）
七・二七	第二回小中学生一日航空教室（二六名）
九・一一 二〇	プレ日本滑空選手権大会開催（参加団体一四、一三〇名）
一一・	飛行終了
六三・四・九	北海道滑空協会設立総会（八団体、会長近藤良四郎就任）
七・三〇 八・三	第二五回全日本高等学校滑空選手権大会に四名参加（埼玉県栗橋滑空場） 福地和範：優勝、宮崎充広：五位
八・二六	集中豪雨による石狩川増水のため滑走路の1/3が冠水
九・八 一九	第六回全日本滑空選手権大会開催（参加二〇機二一名）
一一・六	飛行終了 総飛行回数一、三六七回

・滝川航空協会（事務局・滝川市二の坂町東三丁目二の一 滝川スポーツセン

ター内）

設立 昭和五十七年三月八日

会長 近藤良四郎

会員数 九〇名（昭和六十三年度現在）

（内訳）

顧問 五名 正会員 七七名  
準会員 七名 団体会員 一名

（居住別内訳）

滝川市内 二六名  
道内 五四名

道外 一〇名

・滝川滑空場（中島町地先、石狩川河川敷地）

位置 北緯四三度三二分三六秒

東経一四一度五三分五一秒

標高 二三メートル

専有使用面積 六五、〇〇〇平方メートル

（着陸帯及び駐機帯 二四、〇〇〇平方メートル）

土地の種類 河川敷

着陸帯 長さ 八〇〇メートル 幅 六〇メートル

磁方 〇三〇度—二二〇度

舗装の有無 芝

平均こう配 縦 〇・二五%—横 〇・五〇%

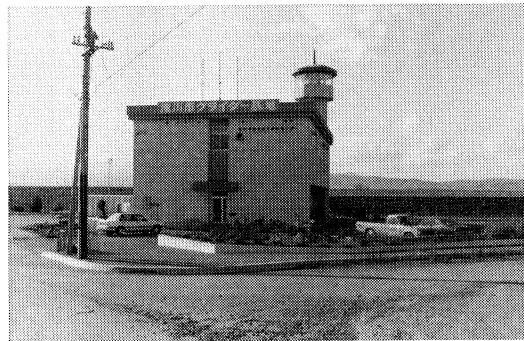
運用 四月〜十一月 常時利用可能

（主として、土、日、祝祭日に運用）

・航空科学研修センター（中島町一四八番地）



グライダー滑走場



航空科学研修センター

敷地面積 二、一八八・二〇平方メートル  
建物面積 五七三・五〇平方メートル  
構造 鉄骨造二階建一部塔屋  
施設概要

一階 格納庫、玄関ホール

二階 事務室、研修室、和室、厨房、管理人室

洗面所、便所、その他

塔屋 R階、物見塔

工事費用 七九、三一五千円

(内訳) 建築 五七、二〇〇千円

電気設備 二、七〇〇千円

給排水設備 六、〇〇〇千円

その他 一三、四一五千円

### 滝川航空公園

航空公園は、今までのグライダーを楽しむということを超えて、グライダーを中心とした地域開発のプロジェクトと考え、更に北海道における滝川市の果たすべき役割を担うという使命と滝川市民を結び、青少年の健全育成に寄与しようとするもので、第五期北海道総合開発計画(昭和三十六年六月 閣議決定)の空の余暇資源開発に示された方針において、スカイスポーツ等のイベントの開催、交通基盤整備と連携して周辺地域の開発を進める、航空博物館等を備えた航空公園等の整備、グライダー等のスカイスポーツ振興のために滑空場や広場等を備えた航空公園を整備することから今後の発展方向として、空知においては、河川やダム湖、スキー場等を中心とする中空知大規模ナチュラルプレイゾン構想で航空公園の整備を図り、更に、各種スポーツ大会の開催等の施策の推進と、観光発展

のための人材養成を図るとして大規模リゾート基地等の形成にその方向を高めてきた。

滝川市としては、スカイスポーツネットワーク(SSN)構想に基づいて平成元年三月、航空公園基本計画を策定した。その骨格は空を飛ばない人々に「空に親しみ」「空に学び」「空を体験する」夢とロマンを具体化した空の社交場として、一般大衆のための楽しみの空間であると位置づけ、現石狩川河川敷の滑空場を中心に、○児童生徒のための空の遊戯場、○航空公園のシンボルとしての中央広場、○芸術作品の屋外展示場、○本物を屋外に展示し子供たちが自由に乗れる航空機に親しむ広場、○航空博物館、○道路の整備、○植樹等による緑地の整備と拡大、○休養散策等による空との親しみ、○滑空場の拡充移設、舗装整備、○イベントゾーン及び軽飲食店舗ゾーンの設置、○野球場の移設整備、○空に関するゲームセンターの設置等、幅広く構想の中に盛りこみ、平成元年から工事をすすめ、平成七年の完成をめざす壮大な事業であり、これが完成すると滝川市を中心とした中空知の地域活性化の中核的なものになるうと思われる。

社団法人滝川スカイスポーツ振興協会(二の坂町東三丁目二の一)

昭和五十七年に発足した滝川航空協会は、グライダーの拡充とスカイスポーツの普及につとめてきたが現在までに会員数も一〇〇名を数え、一般市民の体験搭乗者も延べ一、五〇〇人になるなど、各種イベントや大会の企画推進も高い評価を得て定着してきた。しかし、滝川市が航空公園の整備拡充をめざして、平成元年八月に工事

起工式を行い事業内容の拡大が図られることになったところから、実質的な運営主体である滝川航空協会の組織強化が各方面から望まれてきた。そこで航空協会は発展的に改組し、「社団法人滝川スカイスポーツ振興協会」を設立して、常勤体制もとれるよう組織を強化し、新たな事業計画を強力におし進めることによりスポーツを利した地域の活性化に貢献することとした。

・設立年月日 平成二年四月一日

・役員

- 会 長(1) 近藤良四郎
- 副会長(3) 阿部 正 齊藤 春雄 板倉 忠興
- 常任理事(2) 吉田 勝三
- 理事(10) 大江 郁夫 広部 皓三 岡田 秀夫 塩尻 一郎  
少覺三千宏 竹山 典克 田端 真佳 中田 治己  
本間 茂 宮島 忠幸 和田 猛
- 監 事(2) 熊本 博一 了輪 隆

・事業

- 。スカイスポーツの啓蒙普及
- 。観光資源・産業の開発
- 。情報の収集及び提供
- 。調査研究
- 。航空機の操縦技術等の向上と指導者養成
- 。グライダ研究所の設置経営

体育指導委員

昭和三十六年に公布されたスポーツ振興法に基づく、滝川市教育委員会規則により、体育指導委員制度が定められている。

体育指導委員は、住民のスポーツ振興に関して、実技指導、スポーツ活動促進のための組織の育成をはじめ規則に定められた職務を行うことになっており、その定数は一七名、任期は二年である。

昭和五十六年以降の滝川市体育指導委員

氏名	就任	退任
金子 重男	昭和五六・四	一〇平元・三・三一
星 隆蔵	同	〇平元・三・三一
高橋 定明	同	〇平元・三・三一
池上 紘一	同	〇平元・三・三一
島倉 敏雄	同	〇平元・三・三一
前田 静枝	同	〇平元・三・三一
田中 従道	同	〇平元・三・三一
成田 光夫	同	〇平元・三・三一
深田 正雄	同	〇平元・三・三一
早弓 啓司	同	〇平元・三・三一
大塚 亨	同	〇平元・三・三一
加藤 実	同	〇平元・三・三一
鈴木 静	同	〇平元・三・三一
初山 清仁	同	〇平元・三・三一
東 晴子	同	〇平元・三・三一
高桑 武行	同	〇平元・三・三一
米田 裕紀	同	〇平元・三・三一
中谷 幸司	同	〇平元・三・三一
松田 義雄	同	〇平元・三・三一
寺谷 厚子	同	〇平元・三・三一
住川 光二	同	〇平元・三・三一
井上三千年	同	〇平元・三・三一
斉藤 雄範	同	〇平元・三・三一
佐藤 俊朗	同	〇平元・三・三一
松本留美子	同	〇平元・三・三一
菅野 正義	同	〇平元・三・三一
佐藤 安憲	同	〇平元・三・三一
山本 範子	同	〇平元・三・三一
徳永 光幸	同	〇平元・三・三一

萩原 康雄 同 右 〓現  
 佐藤 寿幸 同 右 〓現  
 佐々木 智 同 右 〓現

#### 第四節 青少年の育成

滝川市青少年補導センター（滝川市教育委員会青少年教育課内）

昭和五十一年七月一日、補導センター設置規則を改め、センター運営委員を廃止し、補導員を滝川市教育委員会が委嘱、地区育成会、市内各学校等、諸機関や団体の協力を得て補導活動を行っている。

補導センターの業務 (1) 青少年関係機関及び団体の連絡調整 (2) 非行防止と健全育成の指導 (3) 相談、補導及び事後指導 (4) 青少年非行防止についての広報活動 (5) 小、中、高等学校の連携強化による非行防止活動 (6) その他青少年の非行防止に必要な事項

組織 (1) 地区会、小学校通学区を単位として地区ごとに補導センター業務を分担推進する (2) 委嘱を受けた補導員は、補導センター直属とし、地区会に所属し活動する。(3) 学校部会、補導員のうち小、中、高等学校の教員をもって、①小、中学校部会 ②中、高等学校部会、③合同部会 の三部会を設け、連絡調整、情報交換、実践交流、研修などを行い、青少年の健全育成、非行防止の実践につとめている。(3) 青少年モニター 市内の中学生四名、高校生四名、青少年又は大学生二名、計一〇名を滝川市教育委員会が委嘱、調査、報

告、提案などを依頼し、青少年健全育成の有力な資料として活用している。

補導員の活動状況 (1) 一般補導 補導員一人月二回、三人体制を原則に四つの時間帯に分け、繁華街を中心に巡回、(2) 特別補導 祭典、興行、特別行事等の場合、全員または一部の出役で実施 (3) 広域補導 冬期間を除き、公用車により一般補導ではできない市周辺などの場所を月三回程度巡回 (4) 地区補導 各地区会において、それぞれの地区内の問題となる、又は問題となりそうな場所等を自主的に巡回する。

・平成元年度補導員（任期 平成一・五・一〜平成二・四・三〇）

地区	氏名	所	属
東栄地区	高山 勝昭	東栄小	教P
	山川 政明	東栄小	間
東地区	中村 孟誠	東小	教P
	和歌 昭彦	東明中	教P
	大谷 勇一	明苑中	間
	佐々木 正雄	明苑中	間
西地区	伊藤 琢治	西小	教P
	土肥 昭雄	西小	間
	安達 充幸	西開中	教P
	斉藤 正弘	西開中	間
	松橋 治聡	西高	教P
南地区	加藤 巖孝	西民	間
	西島 忠雄	西民	間
	小出 忠	第三小	教P
南地区	佐藤 安憲	第三小	間
	新保 勉夫	第三小	間
	吉田 幸司	滝高	教P
東地区	中山 三宅	東小	間
	三宅 幸	東小	間
	三宅 幸	東小	間

地区	氏名	所	属
北地区	住川 光二	第二小	教P
	小貫 敏夫	第二小	間
	落合 源吾	工業民	間
中地区	橋本 隆範	第一小	教P
	古瀬 忠義	第一小	間
	若松 重子	江陵中	教P
	中村 京爾	江陵中	間
	中山 莞博	江民	間
	石井 義弘	江民	間
	川口 由男	江民	間
江部乙地区	助川 馨	江部乙小	教P
	渡辺 和治	江部乙小	間
	石井 邦紀	江部乙中	教P
	外山 親志	江部乙中	間
	相馬 康人	北高	教P
江部乙地区	梅野 重勝	北民	間
	松本 靖	北民	間

・平成元年度 青少年モニター

氏 名	所 属	氏 名	所 属
紅 露 一 寛	江陵中学校	寺 田 和 人	滝川北高等学校
藤 元 し の ぶ	明苑中学校	竹 村 智 晃	滝川工業高等学校
袴 田 優 桃	開西中学校	早 弓 佳 江	滝川西高等学校
増 田 峰 人	江部乙中学校	畑 沢 利 加 子	國學院女子短大 勤労青年
丸 谷 奈 々	滝川高等学校	鳥 宗 宏 光	(岡本税理士事務所)

滝川市スポーツ少年団本部

昭和三十八年、全道に先がけて「双葉スポーツ少年団」の男女二団を結成し最初の団旗が伝達された。

現在では、一六団、四二七名(男三七二、女五五)の団員によって各団とも力強くまとまり(次頁参照)、相互に切磋琢磨し、心身の健全な成長に努力している。

・歴代本部長

- 初代 岩本 正義 (昭三九・四〇四・三)
- 二代 三浦 光正 (昭四四・三〇五・七)
- 三代 後藤 敏行 (昭五七・四〇六・一・三)
- 四代 藤井 政治 (昭六三・三〇六・一・四)
- 五代 高橋 辰夫 (昭六三・三〇六・一・四) 平成元年現在

滝川市青少年問題協議会

昭和二十八年法律第八十三号青少年問題協議会設置法が公布されそれに基づき、滝川市は昭和三十六年六月八日条例第二三三号をもって任意設置から条例設置への施策をすすめた。

これは終戦後における日本経済の進展に伴って家庭教育や学校教

育、それらを取りまく社会教育等が、ややもすると一貫性を欠き、青少年の非行が累増し極めて憂慮される事態が予測されることから単なる教育問題の一端という把握から抜け、地域の問題、行政の問題としてあらゆる面からの良知を結集して健全育成のための統一した事業や施設等の施策を推進しようとするもので、年々その内容は見直され充実され、各種団体、機関、育成にかかわる諸行事等幅広い協力を得、その効果は上がりつつある。

滝川市の青少年問題協議会の委員は、市議会議員一名以内、行政三名以内、学識経験者一三名以内、計一七名以内で構成され、会長には市長があたり、委員の任期は二年となっている。

昭和五十五年四月一日委嘱

・印 中途退任 △印 中途補佐

- 井上 正雄 綱淵 正幸 関藤 龍静 橋本 鉄男 △佐瀬 瑞生
- ・小山田健二 長屋 昌也 松井登喜男 山本 文子 △都鳥 良治
- 山田 舜二 山田喜千代 手島 二枝 中西 重雄 △斉藤 武
- ・高橋 伍郎 金子 重男 樋郡 英夫 柳本 豊 中里 健一
- 昭和五十七年五月一日委嘱
- 上元 馨 関藤 龍静 綱淵 正幸 木村 泰二 谷口ヤス子
- 柳元 豊 樋郡 英夫 寺内 道正 小田島 直 △山本 節哉
- 道仏 文夫 工藤 正勝 伊井 武 渋谷 春繁 朝日 昇道
- 井上 正雄 熊谷 澄夫 高橋 沖夫
- 昭和五十九年五月一日委嘱
- 道仏 文夫 寺谷 廣安 加賀谷時子 少覺 和子 小田島 直
- 宮崎 次郎 今井 定利 竹内 弘 井上 正雄 △日野 孝三
- 横井 善吉 関藤 龍静 笹木 国春 綱淵 正幸 △斉藤 肇
- 梅野 重勝 朝日 昇道 樋郡 英夫 千代谷文勝
- 昭和六十一年五月一日委嘱
- ・黒井 巖 横井 善吉 朝日 昇道 坂下 薫 斉藤 肇

平成元年度滝川スポーツ少年団

団名	代表者名	団員数	団員内訳					指導者数
			性別	小	中	高	計	
明星剣道	海野舎人	22	男女	11 2	9		20 2	2
北陵剣道	首藤和彦	22	男女	11 1	7 3		18 4	2
江部乙剣道	神原充史	15	男女	7	7 1		14 1	1
三小ピソネ	佐藤安憲	44	男女	44			44	4
滝川イーストウルフ野球	見之瀬敏夫	33	男女	33			33	2
滝一野球	寺越敏晴	50	男女	50			50	3
滝川ジュニアドラゴンズ二小	井上正一	64	男女	63 1			63 1	6
滝川東サッカー	波辺龍之	11	男女	11			11	3
滝川柔道	広森弘志	13	男女	7	2 3	1	10 3	4
朝日剣道	堀之内利徳	22	男女	10 2	7 3		17 5	2
滝川バレーボール	田中稔也	14	男女	6 8			6 8	2
三小ミニバスケット	門田弘道	30	男女	14 16			14 16	2
江部乙サッカー	石川昭	11	男女	11			11	1
修心館剣道	近江好明	17	男女	6 9	1 1		7 10	5
西陵剣道	加藤裕道	28	男女	17 4	2 1	4	23 5	3
滝川ブルーフェニックス	上川昭夫	31	男女	31			31	3
	合計	427	男女	332 43	35 12	5	372 55	45

△井上 正雄 鈴木 健治 ・片山 邦哉 小川マス子 少覺 和子  
 △本間 茂 △西岡 晃一 寺谷 廣安 梅野 重勝 洪川 晋一  
 ・綱淵 正幸 △村瀬 惣一 堀田 建二 関藤 龍静 松原 章  
 ・日野 孝三 △松井登喜男  
 昭和六十三年五月一日委嘱  
 黒井 巖 ・西岡 晃一 関藤 龍静 三浦 公子 △穴木沢 洵  
 △西村 才吉 ・鈴木 健治 梅野 重勝 朝日 昇道 保田 勝滋  
 △遠藤 隆 △池田 寿 ・中土井 昭 ・坂下 薫 高畑 イク  
 ・村瀬 惣一 △坂田 和友 ・中川 一郎 福田 清昭 中野 竹久  
 本間 茂 △井上 昭

滝川市青少年育成会連絡協議会

青少年の健全育成を願う各地区の育成会はそれぞれの地域関係機関、団体と提携し、各々諸活動を展開してきたが、それらの活動が全市的なものにする必要があり、地区青少年育成会役員が寄り集まり、育成会間の相互の連絡調整、全市的な育成のための行事の実施等を図ることによる育成作用の向上が期待できることから、七地区全育成会が組織的に参加し諸活動が展開されている。

・主たる行事・事業

- (1) 青少年健全育成基金造成の集いの開催
  - (2) チビッコレクリエーション大会
  - (3) ジュニアリーダー研修会の開催
  - (4) 地区対抗ソフトボール大会
  - (5) 子ども会指導者研修会
  - (6) たのしい子どもと老人の集い
  - (7) コスモスクリーン作戦
- ・役員
- 会 長 梅野 重勝(江部乙地区)  
 副会長 坂下 薫(北地区) 洪川 安博(西地区)  
 事務局長 西村 才吉(東地区)  
 事務局次長 宮井 運隆(青少年教育課)

会 計 菅原 武男(中地区)  
 監 査 若松 義男(東滝川地区) 中谷 幸司(南地区)  
 ・地区青少年育成会  
 小学校下七地域に、地域、学校、PTA、その他関係団体が集まり結成されたもので、青少年の健全育成、及び非行防止のための活動を展開している。

・地区育成会の状況

- (1) リーダー研修会への参加
- (2) 室内・雪中運動会の開催
- (3) ソフトボール大会への参加
- (4) 盆おどり大会

名 称	結成年月日	会 長 名	町内会数
東 地 区 (東小校下)	S 55. 5. 14	西 村 才 吉	13
西 地 区 (西小校下)	S 56. 10. 13	洪 川 安 博	24
南 地 区 (三小校下)	S 55. 1. 31	中 谷 幸 司	32
北 地 区 (二小校下)	S 57. 11. 30	坂 下 薫	35
中 地 区 (一小校下)	S 56. 10. 20	菅 原 武 男	33
東 滝 川 地 区 (東栄小校下)	S 48. 4. 1	若 松 義 男	9
江 部 乙 地 区 (江部乙小校下)	S 46. 12. 5	梅 野 重 勝	105
合 計	7 地区		251

・滝川市青少年を育てる会

青少年の活動を育てるための必要な事業を行い、健全育成及び福祉の向上に寄与しようということで、滝川市青少年育成会連絡協議会と滝川市児童館母親クラブ連合会が結成したもので、昭和六十二年五月十四日設立された。

・事業

滝川市青少年育成会連絡協議会と重複し協同で行っている。

・役員

会長	梅野重勝	会計	菅原武男
副会長	坂下薫	同次長	長尾静子
同	吉野郁子	監査	中谷幸司
同	渋川安博	同	若松義男
事務局長	西村才吉	同	山内正子
〃次長	宮井運隆		

少年指導委員

市内の繁華街を中心に見回りなどをして少年の非行を未然に防止しようとする民間のボランティア。昭和六十一年から任期二か年ということで滝川警察署から委嘱され、青少年の健全育成の重要な一翼を担っている。

昭和六十一年委嘱

久保田 昭一 中谷 幸司 石黒 安雅

昭和六十三年委嘱

久保田 昭一 中谷 幸司 石黒 安雅  
石川 勉 千田 久 高田 優

平成二年委嘱

第二章 社会教育

久保田 昭一 中谷 幸司 石黒 安雅  
石川 勉 千田 久 高田 優

日本ボーイスカウト滝川第一団 昭和四十七年再発団以来、全国、

全道規模で行われる各種大会への参加及び市内で行われる各種行事へのボランティア活動、また団員の研修等の実施により、青少年の社会参加への意義を理解させるとともに健全育成に大きな役割りを果たしている。ボーイスカウトの「奉仕の精神」「三指の礼」のもと、今後ますますの活発な活動が期待されている。

また、滝川第一団の活発な活動が評価され、団員の中から最高進歩進級章、富士スカウト章に該当する優秀な団員として、昭和五十六年、同六十年、同六十三年（二名）、平成元年（二名）と連続して授与者を輩出している。

・日本ボーイスカウト滝川第一団歴代委員長

上西 正夫（昭五五） 木村 米男（昭五六）  
猪股 栄三（昭五七） 田村 昌栄（昭五八〜平二現在）

・ビーバー隊発足

ボーイスカウト日本連盟及び北海道連盟はかねてから幼児（小学校一、二年生）の参加について推進してきたが、滝川市における市民各層からもビーバー隊結成の要望もあり、空知地区としては始めてのビーバー隊発足となった。

発足日 平成二年四月一日

隊長 浜田 裕美  
隊員 八名

## 第五節 青年団体

### 滝川市青年団体協議会

歴代会長

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 九代 清水 彰 (昭五五)   | 一〇代 高田 久芳 (昭五六) |
| 一代故工藤 政勝 (〳五七)  | 一二代 竹内 弘 (〳五八)  |
| 一三代 上野 恭敬 (〳五九) | 一四代 中野 竹久 (〳六〇) |
| 一五代 左近 伸和 (〳六一) | 一六代 石山 悟司 (〳六二) |
| 一七代 長谷川憲邦 (〳六三) | 一八代 中野 竹久 (平 元) |
| 一九代 中野 隆 (平 二)  |                 |

### 滝川市青年会議

歴代会長

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 四代 米沢 勝美 (昭五六) | 五代 望月 雅之 (昭五七・五八) |
| 六代 竹内 弘 (〳五九)  | 七代 清水美千直 (〳六〇)    |
| 八代 佐藤 友昭 (〳六一) | 九代 中野 竹久 (〳六二・六三) |
| 一〇代 鳥宗 宏光 (平元) |                   |

### 滝川商工青年学園自治会ぶらたなす

歴代会長

- |                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 望月 雅之 (昭五六・五七)、美濃 佳隆 (昭五八・五九)、佐藤 友昭 (昭六〇)、<br>〇)、渋川 晋一 (昭六一)、玉置 泰弘 (昭六二)、川崎 恭誉 (昭六三)、鳥宗<br>宏光 (平元・二現在) |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 江部乙町農業協同組合青年部

昭和三十三年三月二十七日結成、農村青年が農業経営の担い手として農村の文化と教育を高めるとともに、みずからが新しい農業技術を取得し、農業経営の合理化への強い推進力となって、協同相互扶助の精神をもって農協の発展につくすことであった。そのための

自覚と研鑽を高める場として組織的に活動を続けてきた。

減反、米価問題、自由化問題等、解決の難しい事柄が山積している昨今にあって、活力ある農業、近代化された農業経営に青年部の果たすべき役割はますます大きくなり重要視される。危機突破に向けて一致団結の努力を続けているところである。

・歴代部長

- |           |
|-----------|
| 七代 大川 稔   |
| 八代 中村 豊   |
| 九代 岩崎 秀康  |
| 一〇代 木幡 孝雄 |

### 滝川市農業協同組合青年部

昭和二十四年四月結成発足、終戦後の混乱期から農協を中心とした農業経営確立の中核となり、最近の農業人口の減少と農業形体の質的変革の中においてその活動はますます期待されている。

減反、米価問題、自由化問題等々、困難な課題が山積している現実にとのように対処するか、農業構造の改善のための研鑽と米の消費拡大への寄与のあり方、他青年団体との交流強化、地域振興事業への積極的な参画など、その期待は大きく責任もまた重いものがある。

・歴代部長

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 二五代 吉田 敏昭 (昭五三・五四) | 二六代 岡内孝一郎 (昭五五) |
| 二七代 伊藤 幸三 (昭五六)    | 二八代 新庄 純久 (昭五七) |
| 二九代 小坂 裕吉 (昭五八)    | 三〇代 中野 義治 (昭五九) |
| 三一代 山岸 穰 (昭六〇・六一)  | 三二代 倉嶋 政彦 (昭六二) |
| 三三代 宮本日呂史 (昭六三・現在) |                 |

## 第六節 婦人団体

### 新たなる婦人会活動

滝川市農業協同組合婦人部 昭和三十年四月発足、農村婦人の地位向上、農村生活の合理化を図り、農村文化の発展を目的に幅広い活動を続けてきた。当初は、料理、健康、家計等の研修や見学視察が主なものであったが、農業をとりまく状況が厳しくなったことから婦人としての教養を深め経済生活の改善に努め、農協発展の一翼を荷担して部員協力して努力している。

・歴代部長 三代 兼田 和子(昭五二〜昭五五) 四代 中垣 照子

(昭五六〜昭五九) 五代 谷口ヤス子(昭六〇〜現在)

江部乙町農業協同組合婦人部 昭和三十年三月結成、事業としては、視察研修による教養拡充、家族の健康管理を重視した検診参加、食生活改善の為の料理講習、あるいは消費生活展を開くなど生活改善のあり方を求め活動してきた。また農協共済事業等に積極的に参加協力し今日に至っている。

・歴代部長

一〇代 野口 ヒロ 一一代 蜂谷カツミ  
一二代 山本 光子 一三代 中島キミ子

### 滝川市婦人会

滝川市婦人会は、昭和二十一年に創立され以来市の発展とともに親睦の和を拡げつつ、市の各種行事に参加するなど今日に到っている。

る。

この一〇年における主な事象をみると、昭和六十一年十月、会創立四十周年記念式典を内外多数の方々のご祝意の中で盛大に挙行、また公衆衛生事業に功労ありと認められ、団体の部において全国表彰の栄を受け、更に、同年、長年の協力を可として北海道共同募金会長表彰の受賞がある。

本会は主として働く婦人の家及び公民館を拠点として活動しているが、生活、厚生、料理、レクリエーション、音楽の五部門の組織になっており、各部が担当事業を運営し連携を強めながら活動している。

平成元年十月、新しく設立された「滝川市女性の自立プラン推進協議会」の加盟団体として新しい発展に寄与することを期している。

・歴代会長 二五代 高野 トシ (昭和五五・五六年度)

二六代 杉浦 京子 (〃 五七・五八〃)

二七代 荒井八重子 (〃 五九〃)

二八代 金山 倫子 (〃 六〇・六一〃)

二九代 高畑 イク (〃 六二・六三〃)

三〇代 高野 トシ (平成元年度現在)

### 江部乙町婦人会

研修・親睦・社会奉仕等の事業計画のもとに昭和二十一年に発足した本会は、会員の意欲的な参画によって有意義な活動を永年にわたって続けてきた。殊に社会奉仕事業として不用品即売会や文化祭における食堂開設によって得た益金を有益に使っての、緑寿園の慰

安訪問・公民館の備品寄贈・青少年育成会への資金協力など地味ではあるが豊かな経験と誠実な行動に終始してきたことは町民の斉しく認めるところである。また、最近の自動車をはじめとする交通機関の発達は交通事故の多発を招いているところであるが、特に学童の交通災害を憂慮し新入学児を対象に、黄色いマフラーやランドセルカバー等の寄贈着用により、子供たちを交通災害から守るべく、積極的な運動を展開している。

・歴代会長

- 一五代 道川 静子 昭五五〜昭五八
- 一六代 黒田 照子 〃五九〜〃六〇
- 一七代 武田 照子 〃六一〜〃六二
- 一八代 井土登美子 〃六三〜平元
- 一九代 堀内佳奈子 平二〜現在

滝川市母子会

昭和三十五年四月に結成されたこの会は、母子家庭及び未亡人家庭の生活擁護と福祉の増進することをめざして、相談、斡旋、売店経営等、幅広く活動し自主的な運営に努力している。

会員は一五〇名ほどで、日本母子連盟に加入、この指導を受けながら、「フクシ」の展示会を開設し全国規模の物資を提供、たくさん市民の利用協力のおかげで多くの販売実績をあげ活動資金づくりをしたり、公的な福祉施設において催し事がある場合は、母子会が売店を開設したり自販機を設置したり、多くの益金を積立するなど所期の目的達成に力を得、確かな運営を続けている。

・歴代会長

- 二代 福田 朝野 (昭五一〜昭五六)

滝川市婦人団体連絡協議会

- 三代 相沢 喜代 (〃五七〜〃五九)
- 四代 山本 綾子 (〃六〇〜現在)

昭和四十六年、滝川市と江部乙町との合併に伴い、婦人団体も大同団結し滝川市婦人団体連絡協議会として新発足した。発足当初は多少のとまどいはあったものの、市長との懇談、研修会、体育祭、家庭教育講習会など具体的な活動を展開する中で軌道に乗った運営がすすめられた。その後組織が安定することによって活動範囲も年々広がり、道や空知の婦人大会や各種行事の常連として参加、市民体育祭への参画、滝川市婦人の集いの開催、リーダー研修、敬老会行事の手伝い協力、交通安全事業への参加、他市町婦人団体との連携と会員の派遣、更に、栃木市友好都市親善交歓会への積極的な参加、レクリエーション大会の開催、三十周年記念式典など枚挙にいとまのない活動を展開してきた。

平成元年八月、第四十回全道婦人大会を滝川市で開催、「心の時代と婦人の役割」を大会テーマとし、全道内から一、三〇〇名の参加者を迎え、一八分科会の討議と全体会及び講演を通して、女性にも物の時代から心の時代への転換が求められているとし、自らの能力適性を生かし積極的に社会参加することが重要との確認がなされ、極めて有意義な大会との評価をうけ主管した滝川婦連協に新しい一ページを記した。

加盟団体の主体性を尊重しながらそれぞれの団体の活動を連動させながら、互いに力を合わせ統一された運動により、婦人としての

自覚と地位の向上に努力して闘る。

・歴代会長

- 七代 山本 文子（昭五一〜昭五四）
- 八代 谷ロヤス子（〃五五〜〃五七）
- 九代 高野 トシ（〃五八〜〃六〇）
- 一〇代 加賀谷時子（〃六一〜〃六二）
- 一一代 古賀エス子（〃六三〜平元）
- 一二代 金山 倫子（平二〜現在）

・加盟組織一覧（平成二年度）

団体名	代表者	会員数
滝川市婦人会	高野 トシ	四〇〇
滝川市農協婦人部	谷ロヤス子	一六一
江部乙町婦人会	堀内佳奈子	二七一
江部乙町農協婦人部	中島キミ子	四七一
滝川市母子会	山本 綾子	一八〇
計		一、四八三

その他

滝川市婦人ボランティアクラブ

昭和四十五年二月、北海道ボランティア活動研修会に参加した七人が、「滝川市に組織をつくろう」と奔走し、滝川市婦人ボランティアクラブと命名して発足したのが嚆矢であり、地味ではあるが着実な歩みを続けてきた。それは、社会的に恵まれていない人々に激励のための援助の手をさしのべ、女性としてでき得ることを、少しばかりの余暇を利用しみずからの体験や技術を活かして、小さな力をみんなで作ることによって大きな力とし、誠意をもって続けようという営みであった。また、このことによって婦人が滝川市民のひ

とりとして豊かに生き成長できることでもあった。

発足後、活動の様相が市の広報やマスコミなどに取り上げられ、市民各層にも理解されるようになって会員も徐々に増え、現在は二三〇名ほどになっており大きく成長した。年間において実施する奉仕活動は、定期的に継続的に行われているもの、季節において短期的に実施されるものがあるが、ほとんどの場合自分たちの労力を中心とした限られたものならざるを得ないところである。前者の活動では、図書館のブックカバーかけ、一日研修旅行などがあり、後者では、各種募金運動の協力、滝川市民冬まつりの会場でのまごころ売店、高齢者養護施設の慰問等がある。市当局の理解と援助も得られ会員の結束、計画事業（行事）の集約化、簡便化をはかり、スムーズな運営を心がけたたゆまない努力は恵まれた人々に大いに喜ばれている。昭和五十七年六月一日から、カセットテープに広報たきかわを朗読録音し、「声の広報」として眼の不自由な方々に耳を通して市の動きを伝えることをはじめた。ユニークなこの活動は市内外から注目されるとともに、滝川市のようにすぐ理解できると利用者から感謝のことが寄せられ、会員は張りをもって続けている。

平成二年、クラブ結成二十周年を迎えることになり、記念すべき二〇年には歩んできたこの間の喜びや哀しみを回顧しながら、更に心豊かな街滝川市の建設に微力をつくそうと心を新たに努力を誓い合っている。

・歴代会長

- 初代 武田 せい（昭四五〜昭四六）
- 二代 神部富美子（昭五七〜現在）

滝川市女性の自立プラン推進協議会

昭和五十年六月、メキシコにおける国際婦人年世界大界において「世界行動計画」が採択されたが、日本においても、昭和五十二年に「国内行動計画」（昭五二年～昭六一年）を策定し、民法・国籍法・年金法の改正、女子差別撤廃条約の批准、男女雇用機会均等法の施行など男女平等に関する諸法制度を整備した。

これらのことから女性の意識や行動が変わり、自らの生き方をより主体的に選択するようになってきた。また、女性をとりまく環境は、ライフサイクルの変化、高齢化社会への移行、国際化社会の進展などにより大きく変わり、女性の社会参加への意欲が高まってきた。道においては、このような女性の意識や社会情勢の変化に対応し、女性の多様な生き方を支援して男女平等の社会を実現するため昭和六十二年二月、女性自らの指針となる「北海道女性の自立プラン」を北海道女性会議にはかって策定した。このプランは、女性の生涯を「成育期」、「成年期」、「中年期」、「老年期」の四つの世代に分け、ライフステージの課題ごとに、女性自らの努力と、地域・職場での取り組みを示すとともに、行政の役割と方策を明らかにしている。

滝川市においても、さまざまな生き方の中から主体的に自分の道を選択し、積極的に行動しようという女性の動きが顕著になってきたことから、武田せい等が世話人となり「滝川市女性の自立プラン推進協議会設立準備会」をつくり市内各婦人団体に働きかけ、平成元年十月、第二回レディス・コスモス・フェスティバルを開催する

とともにその前段において設立会を開き参加者の同意を得、新発足した。

この協議会は、滝川市の婦人団体が相互に連携を密にして女性の地位向上・福祉の向上と自立、社会参加をめざして具体的な推進を図り、滝川市の発展に貢献しようとするもので、事業として、団体相互の連携と調整、学習活動の促進、地域活動の促進、情報の収集と提供を行っている。発足後日は浅いが、加盟も二〇団体を数え、女性としての責務の認識と、時代変化に鋭く対応できる柔軟さを併せもった現代女性の集団の組織活動に大きな期待が寄せられている。

・歴代会長 初代 高野 トシ（平成元年～現在）  
・加盟団体

滝川市婦人団体連絡協議会	江部乙商工婦人部
滝川市婦人会	婦人防火クラブ
滝川市農協婦人部	滝川市児童館母親クラブ
滝川市母子会	國學院女子短期大学
江部乙町婦人会	滝川市立西高等学校
江部乙農協婦人部	老人クラブ婦人部
滝川市婦人ボランティアクラブ	防犯青年婦人の会
婦人コスモスの会	民生委員婦人部
滝川市交通安全母の会	更生保護婦人部
滝川消費者協会	滝川ソロブチミスト

働く婦人の家（総合福祉センター 三F）

昭和五十六年福祉活動の拠点としての施設を、総合福祉センター

に上乘せして五階建と拡張充実された際、三階部分を「働く婦人の家」として設置し、働く婦人と家庭婦人が主体的に楽しく学び交流する場として定着した。

働く婦人の家では、季節、婦人の希望、講師の確保などを勘案して年間の活動計画を策定し講座を設置、働く婦人が自由に講座を選定参加してその実を挙げている。講座は主に働く婦人を対象としているところから夜間に行われるのが多いのが特色である。

講座は年間に料理等八種類、一講座の回数が多いもので一六回、少ないもので二回ではあるが短期のものは時季的制限をうけやすい。年間の総回数は七〇回くらいにわたっているが、延べ参加者数は八三〇名くらいになり、それぞれの講座はその特色を生かして活発な活動を展開している。

この働く婦人の家では、講座を提供し参加してもらうということだけではなく、講座を修了した婦人が更にそれを継続して学べるよう育成グループを奨励し、みずからの意志による計画学習に施設を利用できるようにしている。また、一般の婦人が趣味等による同好グループの活動にも施設を提供している。これらは一九種、四三グループ、参加者総数六一六名に達し、働く婦人を中心としたグループ活動が連日展開されにぎわいを見せている。

・施設の概要

所在地 明神町一丁目五―二九 総合福祉センター 三F

床面積 一、〇八一・九五平方メートル

設備 講習室四(料理講習室一を含む)

図書室一、和室一、軽運動室一、

・開設講座の状況(平成元年度分)  
託児室一、事務室一、相談室一

講座名	期間 または期日	数 (名)	備考
洋裁	5月8日 ～7月17日	20	前期夜 11回
実用小筆	5月10日 ～7月19日	15	前期夜 11回
経理事務	6月1日 ～9月21日	9	前期夜 16回
ペン習字	9月5日 ～11月21日	11	後期夜 11回
着物着付	11月27日 ～2月26日	6	後期夜 11回
ケーキ作り	12月14、15日	7	短期夜 2回
おもてなし料理	12月21、22日	21	短期夜 2回
ワープロ	2月8、9、10	20	短期昼3回予定

・自主グループの育成状況(平成元年四月一日現在)

種別	グループ数	人員
育成グループ	10	150
ペン習字同好会	2	35
書道	1	10
洋裁	3	45
着物着付	2	45
料理調理	2	28
手編み	2	20
ちぎり絵	2	23
パッチワーク	2	33
ジャズダンス	2	20
切り絵	計	28
計		409
その他	1	10
エアロビクス同好会	3	57
詩吟	2	20
読書	3	40
生花	1	15
民謡	2	20
俳句	1	15
短歌	1	10
舞踊	1	20
ダンス	計	15
計		207
合計	43	616

・働く婦人の家運営審議会委員

相沢 喜代	(昭五六・五・一二)	昭六〇・五・一一)
道川 静子	〃	〃平元・一〇・一五)
香西 キク	〃	〃現 在)
青木 仁八	〃	〃昭五八・五・一一)
工藤 輝光	〃	〃〃五七・三・三一)
佐瀬 瑞生	〃	〃
金山 二男	〃	〃
熊谷 澄夫	(昭五七・四・一七)	昭五九・三・三一)
神部富美子	(〃五八・五・一二)	〃平元・一〇・一五)
伊井 武	〃	〃昭五九・三・三一)
西岡 照子	〃	〃現 在)
久我 英三	(昭五九・五・二四)	昭六〇・三・三一)
菱川 善徳	〃	〃〃六一・三・三一)
和泉アイ子	(昭六〇・五・一二)	〃〃六二・五・一一)
大沢 忠	〃	〃〃六一・三・三一)
深滝 政庸	(昭六一・四・一)	〃平元・三・三一)
笠 光雄	〃	〃昭六三・三・三一)
古賀エス子	(昭六二・一〇・一六)	〃現 在)
中村 康男	(〃六三・四・一)	〃平元・二・三・三一)
高畑 昇	(平元・四・一)	〃現 在)
安彦由利子	(平元・一一・一)	〃
米倉 孝子	〃	〃
檜皮 義博	(〃二・四・一)	〃

第七節 滝川市の生涯学習への取組み

滝川市の生涯学習は、昭和五十三年に策定された「まちづくり基本計画」で、「生涯にわたって、心豊かな人間として生きること

学ぶ街づくり」を基本目標に掲げて以来、慎重に検討を重ね、次の五点を基本的な考え方として取り組んできた。

- 一、地道に息長く続けていくこと。
- 二、技術革新の流れの中で、時代潮流に対応していくこと。
- 三、地域に根ざしたものにすること。
- 四、行政が前面に出るのではなく、手助けをするという立場に徹すること。
- 五、情報交流の場、人のネットワークの場、となるような仕掛けを工夫すべきこと。

この間市民の生涯学習をすすめる上で必要な、生涯学習施設の充実に力を注いできた。幼稚園から小中学校・道市立の高等学校、短大に至る学校教育体系。道立高等技術専門学院、中空知職業訓練センターなどの職業訓練体系。更に、文化センター・美術自然史館・図書館・郷土館・航空科学館・航空科学研修センター・市民会館・運動公園・温水プール・市民ゴルフ場・スキー場・三世代交流センターなど、特色ある文化・教養・体育施設が整備されてきた。

また、中央公民館と地区公民館、図書館と図書コーナー、中央児童センターと地区児童センターのように、中核施設と地区施設の機能分けを行って整備されており、そのネットワークを最大限に活用するソフト事業の実践も必要とされた。

●滝川市生涯学習推進本部

昭和五十九年、行政機構として生涯学習推進本部が設置された。

これは、市民の生涯にわたる学習要求に配慮するとともに、社会の多種々な教育機能を生涯学習の観点から、統合しかつ一層の充実を図るための政策の立案と審議を目的としている。

滝川市の生涯学習推進目標は、滝川市民憲章をもって当てている。市民憲章は、明るい家庭、住みよい社会、豊かな郷土、美しいまち、新しい都市の五づくりを目標とし社会生活全般に係わっている。加えて、平成元年四月に「健康都市宣言」をし、生涯学習の観点から身体・心の健康はもとより、社会・教育・文化等すべての健康を目ざしている。

#### 生涯学習推進本部の事業は

- ① 市が行っている生涯学習関連事業の取りまとめとその分析
  - ② 事業・施設間のネットワーク化
  - ③ 年度別重点目標の設定と事業の見直し
  - ④ 生涯学習振興会との連携・情報交換
  - ⑤ 生涯学習に関する調査・調整・研究
- 等である。



生涯学習風景（滝川市生涯学習振興会）

#### 財団法人 滝川市生涯学習振興会

昭和五十九年、滝川市は市長を本部長とする「滝川市生涯学習推進本部」を発足させた。直ちにプロジェクトチームが編成され現状分析や将来展望などを検討、結論として民間活力導入による団体を組織することが最善ということで昭和六十年四月一日に設立されたのがこの会で

ある。設立時に市内有志から多額の寄付があったことから、これを基金として「財団法人」化の申請をし、同年九月に認可され今日に至っている。

設立の趣意は、高技術化・国際化・高齢化・情報化など、激しく変化する社会の情勢に対応しながら、心豊かにたくましく、生きがいのある人生を送るため、ひいては活力ある街づくりをおし進めるために、学習機会の場を設定することにより、市民の自発的意志に基づき学習要求にこたえることを目的として

①生涯学習機会の提供（講演会・シンポジウム等）、②生涯学習情報の収集・提供、③生涯学習の指導者の登録・紹介・派遣、④生涯学習に関する調査・研究、⑤生涯学習を推進する行政機関・団体との連携を図り、かつこれらの事業に協力援助する。

等の事業をすすめている。

#### 主な事業内容

##### 1 学習機会提供事業

この会の事業のメインである。中央から著名な講師を招いての講演会のほか、セミナー、シンポジウム等を実施してきた。佐藤愛子、和泉雅子、黒柳徹子、松平定信、グレゴリー・クラーク、黒柳朝、林家木久蔵などを招いての講演会の開催、セミナーは夏冬それぞれ一〇回実施、札幌等市外から講師を招いて、教育・宗教・生活・健康などバラエティに富んだ講座を開いているほか、年間を通して毎週一回、ボランティアに富んだ講義養成のため英会話講演も開催、また視察研修旅行等も実施している。これらはほとんどこの会の単独事業

として進めているが、他の機関や団体と共催又は後援もかなり多い。

## 2 情報提供事業

機関誌「生涯学習」並びに情報紙「生涯学習」を発行、会の動きや、時の話題などを紹介したり、講演集録を発行して会員の学習に資するよう努めている。

## 3 指導者登録事業

最近各団体から講師幹旋の依頼が数多くあることから、手軽にお願い可能な講師を市内外に求め、領域別に分類した講師一覧表を作成し便をはかっている。

## 4 調査研究事業

市民各層を対象にして各種アンケート調査等を実施し報告書に集録して配布している。

例、生涯学習に対する市民の意識調査、親と子の関係についての

意識調査、高齢者の生きがいに関する調査 等々

## 5 関係機関・団体との連携

各機関や団体はそれぞれ学習事業をすすめているが、振興会が推進役となり、横の連絡をとるための懇談会を実施したり、記者クラブとの懇談会なども開きながらすすめている。

本振興会は民間団体として市民の学習ニーズに応えるための努力を続けているが、特に市の生涯学習推進本部とは緊密な連携をとりながら車の両輪のように双方相俟って推進すべく留意している。しかし課題は多く、特に市民への浸透は地道に息長く、しかも息切れ

することなく進めていかなければならない。

「学ぶ」ことの意味を、自分自身の立場に戻って考えることの大切さを市民に理解されることが究極のことかもしれない。

・概要（平成元年度の状況）

会員加入状況 一、一二三口、五、六一五、〇〇〇円

基本財産 六〇、八〇〇、〇〇〇円

講演会等参加状況

。講演会 一〇回 四、二七〇人参加

。シンポジウム 二回 六五〇人参加

。セミナー 一三回 三九〇人参加

・歴代理事長

初代 岡田 外之（昭六〇〜現在）